

助成事業完了報告書

事業名:ジュニア・ライフセービング教室の開催
および指導者養成プログラムの開発等
団体名:(特)日本ライフセービング協会

2011年度 日本財団助成事業 ジュニア・ライフセービング教室の開催 および指導者養成プログラムの開発等

■事業内容:

「ジュニア・ライフセービング教室」の実施

- ジュニア・ライフセービング教室の実施
 - 期間:2011年4月～2012年3月
 - 内容:生命教育を軸に、海の安全についての基礎知識を学び、海での自己防衛技術、人命救助術を体験。ビーチフラッグス競技、ジュニアボードレース等も実施し、海を楽しみながら安全意識の啓蒙を図った。
 - 対象:小学生・中学生、場合によってはその保護者も対象とした
 - 場所:各クラブの活動浜またはプール、学校施設等
 - 支援物件:
 - ◇ ジュニア用ニッパーボード 30本/ジュニアテキスト 3000部/ハットロールキャップ 750枚
 - ◇ 各クラブ支援;ジュニア用ボード2本/ジュニアテキスト適宜配布/ハットロールキャップ適宜配布/横断幕
 - 目標人数:50名×15ヶ所=計 750名
- 実施結果
 - 16ヶ所
 - 参加合計 444名

ジュニア・ライフセービング教室における保護者の意識調査

- ジュニア・ライフセービング教室における保護者の意識調査
 - 期間:ジュニア教室開催時、または開催後
 - 内容:ジュニア教室参加の保護者に対するアンケート調査。保護者の視点からのジュニア・ライフセービングに対する認知や意見を収集し、求められるジュニア指導のあり方を検証する。
- 実施結果
 - 10クラブ
 - 回答数 133名

ジュニア・ライフセービング指導者養成システムの開発

- ジュニア・ライフセービング指導者養成システムの開発
 - 目的:指導員養成プログラムの開発と調査研究
 - 期間:2011年4月～2012年3月
 - 方法:
 - ◇ ジュニア教育委員会(会議)の開催
 - 年間を通じて委員会を開催し、ジュニア指導者養成について協議
 - 4月10日(日)、5月10日(火)、6月18日(土)、7月13日(水)、8月23日(火)、9月15日(木)、10月27日(木)、11月8日(火)、12月4日(日)、1月14日(土)、2月4日(土)、3月9日(金)
 - ◇ ジュニア教室・現地視察の実施
 - ジュニア教室をジュニア教育委員が現地視察し、指導指針の普及と検証を実施
 - 8月14日に島郷水浴場(静岡県沼津市)で沼津LSC/中部支部が実施したジュニア教室を現地視察
 - ◇ ジュニア教育指導者研修会の開催
 - 各クラブのジュニア担当者を主な対象として、「指導指針」の普及ならびにジュニア指導者養成に

向けたプログラム体系の情報交換を実施

- 開催日:
 - 06/11(土) 13:30～17:30 参加人数;35名 成城学園中学校会議室
 - 06/18(土) 13:30～17:30 参加人数;10名 和歌山県白浜町中央公民館
- 内容:
 - 指導指針の確認
 - ジュニアプログラム実践例の紹介
 - ジュニア指導者養成プログラムの体系
 - ワークショップ ほか

◇ **ジュニア・リーダー資格プレ講習会の開催**

- 開催日
 - 11月27日 9:30～16:30 参加人数;13名 千代田区立九段中等教育学校
 - 01月15日 9:30～16:30 参加人数;26名 神戸市民福祉スポーツセンター
- 内容
 - ◇ ジュニア教育概論
 - ◇ リーダーの役割と心掛け
 - ◇ 子どもについて
 - ◇ ジュニア教育とスポーツ
 - ◇ 伝え方
 - ◇ 小児・乳児の心肺蘇生法
 - ◇ ジュニア教育と心肺蘇生法
 - ◇ ウォーターセーフティープログラム

◇ **ジュニア・インストラクター資格特別移行措置講習会**

- 開催日
 - 2月25日 9:00～17:00 参加人数;6名 神戸YMCA 学院専門学校
 - 2月26日 9:00～17:00 参加人数;37名 千代田区立九段中等教育学校
- 内容
 - ◇ ジュニア・ライフセービング・インストラクターの役割と心掛け
 - ◇ ジュニア教育とマネジメント
 - ◇ ジュニアサポーター、ジュニア・リーダー講習会のマネジメント
 - ◇ 学校教育との関わり
 - ◇ 伝え方
 - ◇ ワークショップ(指導計画)他

2011 年度 日本財団助成事業

ジュニア・ライフセービング教室の開催 および指導者養成プログラムの開発等

事業報告書

<目次>

- ◇ はじめに
- ◇ ジュニア教育のこれまでの取り組み
- ◇ ジュニア教育の今後の取り組み
- ◇ ジュニア・ライフセービング教室 実施報告
- ◇ ジュニア・ライフセービング教室における保護者の意識調査<調査報告>
- ◇ ジュニア・ライフセービング指導者養成システムのプログラム開発<実施報告>
 - 1) ジュニア教育委員会(会議)での協議
 - 2) ジュニア教室・現地視察の実施
 - 3) ジュニア指導者養成講習会の資格体系
- ◇ おわりに(まとめ)

はじめに

昨年9月に江ノ島にて「第8回ジュニア・ライフセービング競技会」を開催致しました。江ノ島へ観光で訪れた方たちの多くは、海岸で実施している子どもたちの競技会に足を止めて下さいました。

東日本大震災以降、人々の持つ自然への思いや価値観は一変しました。そのような事象の中で、多くの観光客に“海”はどう映ったのでしょうか。

江ノ島を散策する観光客と競技会に臨む子どもたちの延長に、その“海”は広がっていました。

「人と海をつなぐ懸け橋となる」

あの日以降、日本ライフセービング協会が心一つに誓ったスローガンです。

3.11を心に刻み、「水辺の事故を減少させる」活動を継続していくことは、これからも自然から多くを学ばせていただくことを意味します。私たち大人がその距離を広げてしまうことは、子どもたちの体験の場や、自然に親しむ“心”を遠ざけてしまうことに直結します。活動の安全を担保していくプロセスに、減災への思考や対策を及ばせ、共有の輪を広めていくことこそ、ライフセービングの担う役割と受け止めております。

貴財団の助成を賜り、重ねた時間と活動が上記の理念を構築する柱となっていることは言うまでもありません。

本年度よりスタートする「JLA ACADEMY」も同様です。水中での身のこなしを基礎とし、ライフジャケットや浮力物を用いたサバイバルスイムを盛り込んだ自助資格「Water safety」の新設。そしてジュニア・ライフセービング教育に関わる指導者資格体系「Junior education course」も整えることができました。

『人と海をつなぐ懸け橋となる』

より一層の地道な活動の継続を誓うとともに、多くの支援を賜りましたことを衷心より厚く御礼申し上げます。

特定非営利活動法人
日本ライフセービング協会
教育部担当理事 松本 貴行

ジュニア教育のこれまでの取り組み

日本ライフセービング協会(以下、JLA)ジュニア教育委員会(旧教育委員会及び拡大委員会)の取り組みと今後の展望についてまとめることで、当面のゴールプランを確認できるようにする。

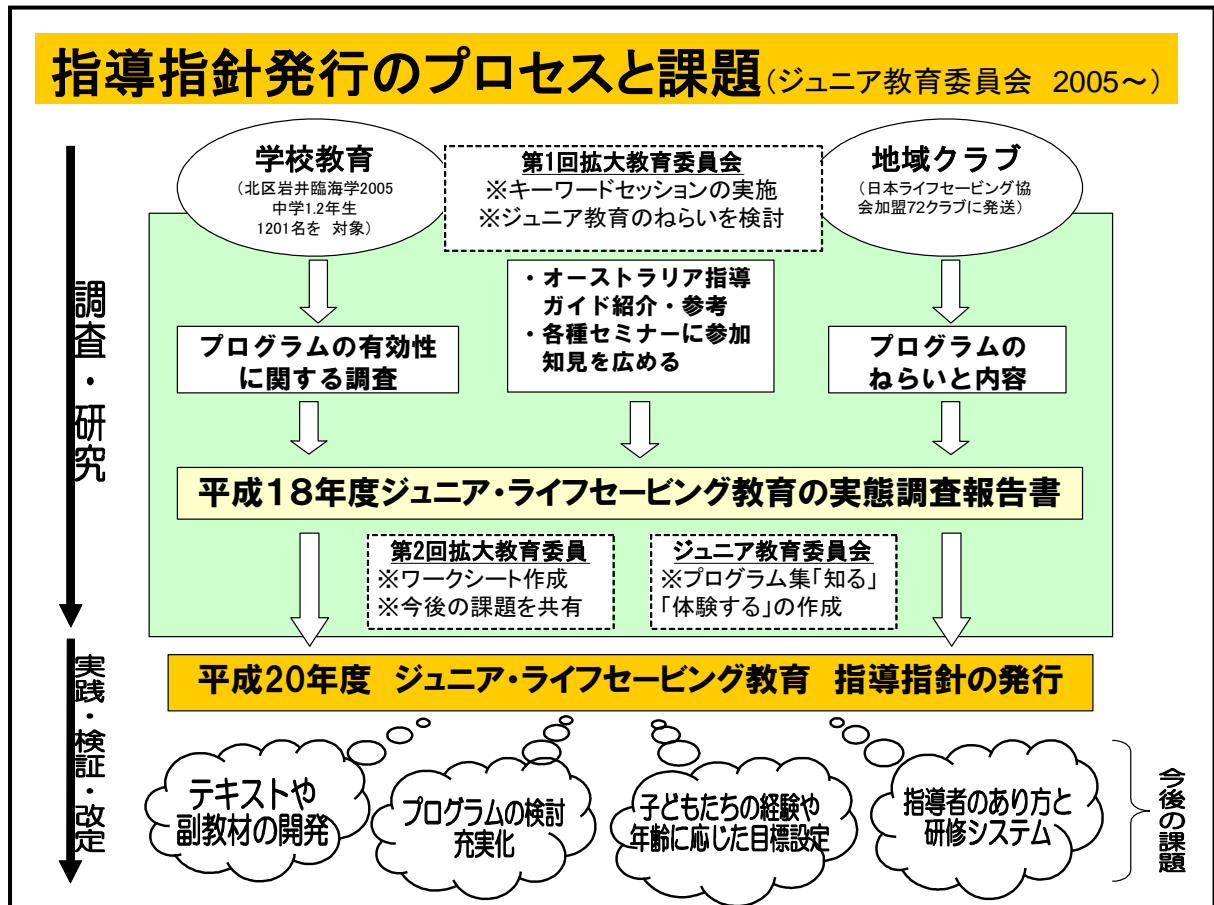


図 2-1 指導指針発行のプロセスと課題(「ジュニア・ライフセービング教育指導指針」より引用。)

<これまでの取り組み>

- 1) 2005 年度
 - ①キーワードセッションの実施。
 - ②ジュニア・ライフセービング教育(以下、ジュニア教育)の「ねらい」を作成。
 - ③ジュニア教育に関連するプログラムやシステムについて検討課題の確認。
 - ④北区岩井臨海学園におけるアンケート調査。(プログラムの有効性)
- 2) 2006 年度
 - ①地域クラブにおけるアンケート調査。(プログラムのねらいと内容)
 - ②ジュニア教育の実態調査報告書を発行。
- 3) 2007 年度
 - ①各クラブジュニア教育関係者によるワークシート作成。(拡大教育委員会)
 - ②ジュニア教育指導指針を発行。
- 4) 2008 年度
 - ①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム開発に着手。(課題整理)
 - ②ジュニア教育指導者研修会の開催。(参加者による教材開発を含む)

③JLA 理事長とジュニア教育委員会の会談実施。(ジュニア教育の方向性確認)

5) 2009 年度

- ①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム開発研究。(研修会開催)
- ②ジュニア教育に関する保護者の意識調査実施。
- ③ジュニア教育指導指針の周知と検証。

6) 2010 年度

- ①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム構築。(研修会開催)
- ②ジュニア教育テキスト(教科書)と副教材の開発研究。
- ③ジュニア教育指導指針の周知と検証。

7) 2011 年度

- ①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム構築と検証。(プレ養成講習会実施)
- ②ジュニア教育テキスト(教科書)の発行。

(資料)

ジュニア教育委員会 2012 年度までの事業報告

1. ジュニア教室

- 1) 教室の実施
- 2) 器材の充実
- ジュニア教育の普及と全国展開
- 新規実施クラブの開拓と教育環境の整備
- 実施経験のない地域クラブに対してソフト(指導者やプログラム)・ハード(器材)面にて積極的にサポート

2. 指導指針の普及と検証から改定へ

- 1) 実地検証・アンケート調査
- 2) ジュニア用教材の開発
- 3) 保護者用ハンドブック作成(未達成)
- 指導指針発行後の普及と検証に伴う、視察とアンケート調査の実施。改定に向けた研究
- ジュニアが使用する、指導指針に対応したテキストの作成。地域クラブはもちろん、学校教育にも活用されやすいテキストを目指す。副教材の開発も視野に入れる
- 保護者向け教育ハンドブックの作成。子どもがジュニア教育を受ける環境には、保護者(家庭)の直接・間接的な影響がある。一番のサポーターとしてのあり方を具体的な表現で伝えることにより、共に子どもの成長を手助けすることが可能になる

3. 指導者養成システムの構築から策定へ

- 1) 研修会の開催
- 2) 指導者養成プログラム研究開発
- 3) ジュニア&ユース連絡協議会の開催(未達成)
- 指導者養成システム・プログラムを意識した研修会の開催。情報伝達・共有、ジュニア担当者の交流
- 養成プログラムのガイドライン策定。指導者養成事業スタート。新たな制度(資格)として、ジュニア教育サポーター(保護者・学校教員・学生など)を検討
- ジュニア&ユース連絡協議会の開催。小中高校教員のネットワーク構築と学校におけるライフセービング教育の可能性を探る

4. ジュニア競技会の発展と充実

- 1) 実行委員会の充実
- 2) 運営マニュアルの作成(未達成)
- 従来の競技運営委員会とジュニア教育委員会からなる実行委員会の充実。役割分担の明確化。競技会方向性の検討とともに拡大・充実を探る
- ジュニア競技会に特化した運営マニュアルの作成

5. 協力事業としての岩井臨海学校

- 1) 今後の方向性について検討
- 2) 指導員確保の方策
- 指導員確保のシステムが確立され、応募が増えることで多くの問題が解消できる

6. ファンデーションプログラムとしてのジュニア教育

- 1) 他団体とのコラボレーションの可能性を探る
- 2) プログラム内容の精選と検討
- すべての活動の底辺(基盤)に位置づけられることを目指す

<ゴールプランとして>

1. ジュニア教育の3つの方向性 (ジュニア教育の実態調査報告書より)

- 地域クラブでの充実
- 学校教育への導入
- ファンデーションプログラムとしての確立。

2. 長期的な視点による「一貫指導教育システム」

- 日本の指導者全員が持つ考え方としての「一貫指導教育システム」。クラブや指導者が変わっても、「日本のスタンダード」として、ぶれない意識を指導者が共有するシステムづくりを目指す。ジュニア教育から継続した指導をすることにより、「セルフレスキュー」から「レスキュー」を可能にする心身を育み、「事故防止の精神」から「支え合う社会創造」を可能にする人間づくりが期待できる。
- ジュニア教育指導者は、“ライフセービング”で「人間教育」をする人。その人の人間性が子どもに大きな影響を与える。ジュニア期は目的ではなく手段として“ライフセービング”を活用したい。“オン・ザ・ビーチ”だけではなく“オフ・ザ・ビーチ”においても「人間教育」を意識したい。挨拶・礼儀・マナー・準備片付けなどあたりまえができるように。
- 水辺に限らない、“ライフセービングスピリット”を伝える道德教育(広義の生命教育)の教材開発は、ジュニア教育年間プログラムのヒントになり得るのではないだろうか。
- スポーツのチカラを信用し、自然体験活動から得られる効用を最大限利用する。「救助力向上＝競技力向上」であるように、ジュニア期からのライフセービング競技(スポーツ)を正しく・積極的に伝えるシステムづくりの必要性。

ジュニア教育の今後の取り組み

- 1) 2012年度
 - ①ジュニア教育指導者養成講習会の実施
 - ②ジュニア教育に関する教材開発と改訂

ジュニア・ライフセービング教室 実施報告

- ① 時期 : 2011年4月～2012年3月
- ② ねらい:水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。
- ③ 対象 : 小学生・中学生 / 目標人数:50名×15回 計750名
- ④ 場所 : 過去の実績を踏まえ会員クラブへ公募し、開催クラブ活動浜にて実施
- ⑤ 物件 : ジュニア用ボード/テキスト/パトロールキャップ/横断幕

■実施報告

16ヶ所 合計人数 444名

	日程	時間	会場	対象	参加	実施クラブ
1	7/23	9:30～12:30	小樽市銭函サンセットビーチ (北海道)	5歳～12歳	32	札幌 LSC
2	7/24	10:00～12:30	大磯海水浴場 (神奈川県)	小学校1～6年生	24	大磯 LSC
3	8/7	10:00～13:00	前原海岸 (千葉県)	小学生以下	26	鴨川 LSC
4	8/7	10:00～15:00	鶴原海水浴場 (千葉県)	小学校1～6年生	30	勝浦 LSC
5	8/7	9:00～12:00 13:00～16:00	相良サンビーチ (静岡県)	小学校1～6年生	30	相良 SLSC
6	8/9	10:00～12:30	美国町海水浴場隣接プール (北海道)	小学校2～6年生	30	小樽 LSC
7	8/9	9:00～12:00	大洗サンビーチ (茨城県)	児童養護施設児童	35	大洗 SLSC
8	8/9-11	実習での実施	清水港～新島	中学生	97	東海大学海洋学部 日本協会中部支部
9	8/13	13:00～16:00	天橋立海水浴場 (京都府)	小学校3～6年生	13	京都 LSC
10	8/14	13:00～16:30	渋川海水浴場 (岡山県)	小学校3～6年生	19	岡山 LSC
11	8/14	11:00～12:30 14:00～15:30	島郷海水浴場 (静岡県)	幼稚園児、小学生	34	日本協会中部支部
12	8/19	10:00～12:00 13:00～15:00	深田クリスタルビーチ (静岡県)	小学校6年生以下	27	西伊豆 LSC
13	8/21	13:30～15:00	江口浜海浜公園 (鹿児島県)	小学校3年生～中学校3年生	12	かごしま磯 LSC
14	8/21	13:00～16:00	若狭和田海水浴場 (福井県)	小学校1～6年生	7	若狭和田 LSC
15	8/22	13:00～16:00	若狭和田海水浴場 (福井県)	小学校1～6年生	7	若狭和田 LSC
16	10/2	9:00～16:00	北谷公園サンセットビーチ (沖縄県)	小学校1～中学校3年生	21	北谷公園 LSC

■主なプログラム

- スタッフ紹介、自己紹介
- 準備体操
- 水なれ、サーフフィットネス(インアウトやウェーディングの練習)
- サーフサバイバル(浮き身の練習、大きな声で叫ぶ練習、バックストロークの練習)
- ビーチクリーン
- 1日のスケジュールの確認
- 今日の目標
- ジュニアテキストを使用しての海の安全11か条
- バディーシステム(健康管理)
- 危険生物の勉強
- 水中でのシグナルのお勉強

- ライフセーバー使用器材の説明
- 海象調査
- 監視タワーに登ってライフセーバー体験
- レスキュー体験(水に入らずに道具を使ってのドライレスキュー方法を学ぶ)
- 流れ体験(プールに流れを作り、水の力を体験する)
- ライフセーバーによるデモンストレーションを見る
- セルフレスキュー、ドライレスキュー(ロープやビニール袋を使用して自分を守る方法を知る)
- ライフセービング競技ビーチフラッグスを体験
- ニッパーボード
- レスキューチューブ体験(人を引っ張ることで命の重さを知る)
- 心肺蘇生法、救急法の勉強(命の大切さを伝える)
- みんなでライフセービングリレー
- チームレスキュー(搬送やレスキュー方法を考え、挑戦させる)
- 本日のまとめ、振り返り(行ったことを振り返り、仲間に自然に全てに感謝をする)

■タイムテーブル例(2時間)

10:00～10:10	【開校式】ライフセービング・オリエンテーション
10:10～10:30	海の安全11か条
10:30～10:40	ビーチクリーン
10:40～10:45	休憩(水分補給)
10:45～10:50	バディーシステム
10:50～11:00	準備運動・水なれ
11:00～11:10	レスキューデモンストレーション
11:10～11:20	サーフフィットネス
11:20～11:25	休憩(水分補給)
11:25～11:45	ニッパーボード、ビーチフラッグス体験
11:45～12:00	【閉校式】振り返り、記念撮影

【活動写真】





ジュニア・ライフセービング教室 保護者の意識調査<調査報告>

1. 調査概要

1) 調査の目的

ジュニア・ライフセービング教室（以下、ジュニア教室）等に「参加させる」と判断するのは保護者である。また、最大のサポーターになりうる可能性も大いに秘めている。そこで、保護者の視点からジュニア教室等への意見収集を実施し、今後のジュニア・ライフセービング教育やその指導のあり方を検証する。

今年度は、昨年度調査したアンケート同様の項目にて実施し、その結果から継続して比較検討できるようにした。また、日本財団より助成いただき完成することができた、平成 18 年度ジュニア・ライフセービング教育の実態調査報告書の内容（1.3.2 地域クラブにおけるジュニア教育の実態調査の考察 p.39）について検証できるようにしている。

2) 調査の方法

①アンケート対象

2011 年度日本財団ジュニア教室 実施 16 クラブ

②アンケート回収クラブ及び回答者数

11 クラブ 回答者 221 名（質問 3・4 については、10 クラブ 回答者 194 名）

③アンケート実施

ジュニア教室開催時、質問紙法にて実施。アンケート用紙は 5. 資料①を参照。

2. 調査結果および考察

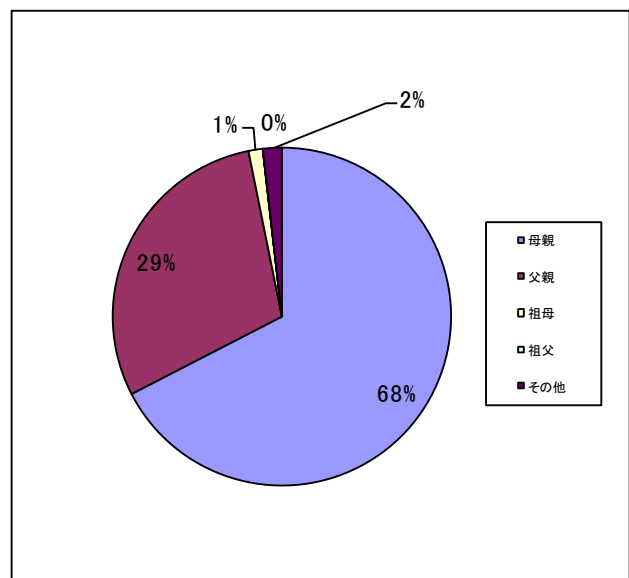
1) 保護者（回答者）について

①参加者との関係

母親の引率が 68%であり、母親に対するアプローチが重要であることが伺える。地域クラブによっては、父親が多いところもある。前年度同様の結果。

	母親	父親	祖母	祖父	その他
小樽	15	5			
札幌	52	4	2		
鴨川	7	7			
大磯	3	5			
中部	9	5	1		4
相良	17	13			
西伊豆	10	17			
若狭和田	6	1			
京都	7	2			
岡山	11	3			
北谷	12	3			

母親	父親	祖母	祖父	その他
149	65	3	0	4

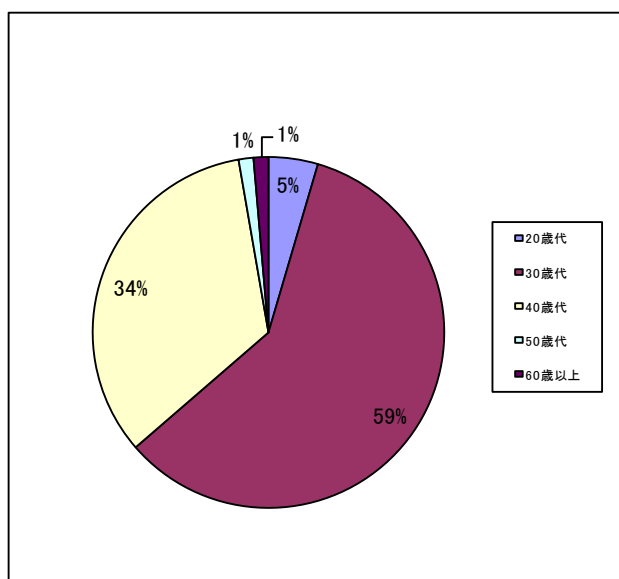


<その他>友人・他

②保護者の年齢

30歳代にて58%を占めることになり、40歳代を加えると92%になる。前年度同様の結果。

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
小樽	4	13	3		
札幌		35	20	1	2
鴨川		6	6	1	
大磯		5	4	1	
中部	6	8	4		1
相良		19	11		
西伊豆		20	7		
若狭和田		4	3		
京都		5	4		
岡山		8	6		
北谷		7	6		



20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
10	130	74	3	3

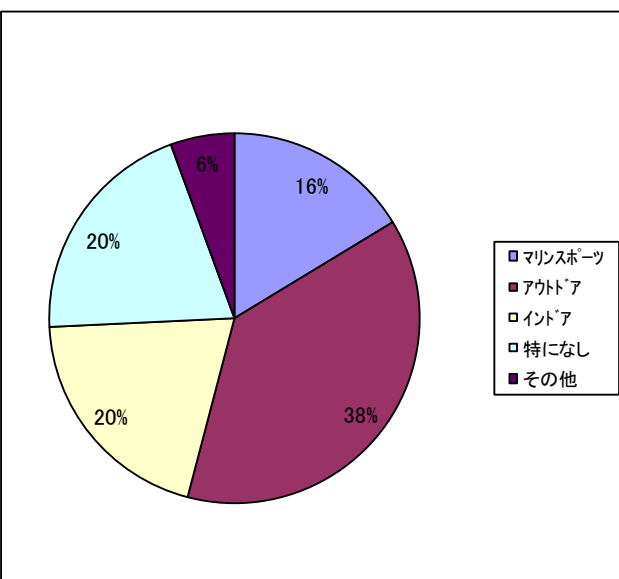
③休日の過ごし方

アウトドア志向が37%であり、マリンスポーツを加えると54%になる。

インドア志向と特になしが20%である。前年度ほぼ同様の結果。

保護者の休日の過ごし方とジュニア教室への参加はあまり影響がないように感じる。

	マリンスポーツ	アウトドア	インドア	特になし	その他
小樽	8	4	5	3	
札幌	2	26	16	16	4
鴨川	4	8	2	3	
大磯	3	5			3
中部		6	4	5	
相良	7	13	5	5	
西伊豆	4	12	4	3	
若狭和田			6	1	
京都	1	1	1	5	2
岡山	2	6	1	6	1
北谷	7	7	3		3



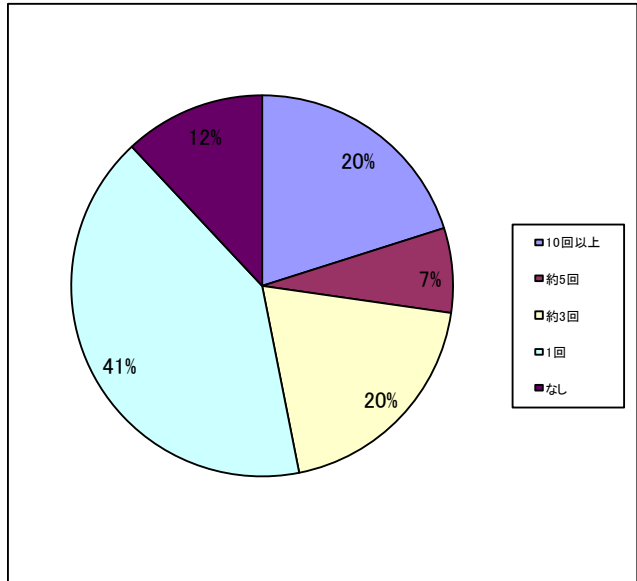
マリンスポーツ	アウトドア	インドア	特になし	その他
38	88	47	47	13

<その他>少年野球・プール・ショッピング・子どもの付き添い・公園・釣り

④海水浴の回数（1シーズン）

年1回のみ海水浴をするが41%であり、なし回答を加えると53%になる。
5つの地域クラブは、なし回答があった。特別なイベントであることが伺える。

	10回以上	約5回	約3回	1回	なし
小樽	15	5			
札幌	2	4	12	31	13
鴨川	5	1	4	2	1
大磯	3		2	1	4
中部			3	6	
相良	2	1	2	25	
西伊豆	1	2	10	13	
若狭和田	2		1		4
京都	1		4	1	
岡山	2		2	6	3
北谷	9	2	1	1	

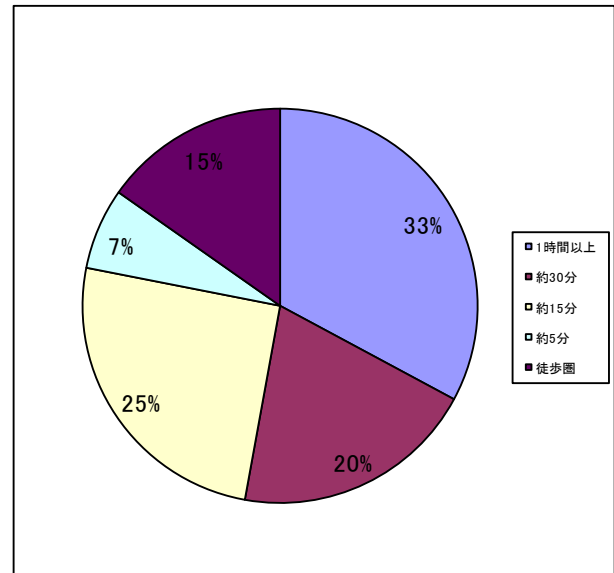


10回以上	約5回	約3回	1回	なし
42	15	41	86	25

⑤海までの距離（自動車にて）

1時間以上が32%であり、30分以上を加えると60%になる。
5分以内が12%であることから、近所よりも遠方から参加している傾向がある。
地域クラブによっては、1時間以上が多いところもある。前年度ほぼ同様の結果。

	1時間以上	約30分	約15分	約5分	徒歩圏
小樽			5		15
札幌	2	22	32	3	
鴨川	8		1	2	1
大磯		1	2	3	4
中部	16	2			1
相良	20	6	3	1	
西伊豆	12	1			1
若狭和田		1	1	1	4
京都	7		2		
岡山	4	5	4	2	
北谷		4	3	2	6

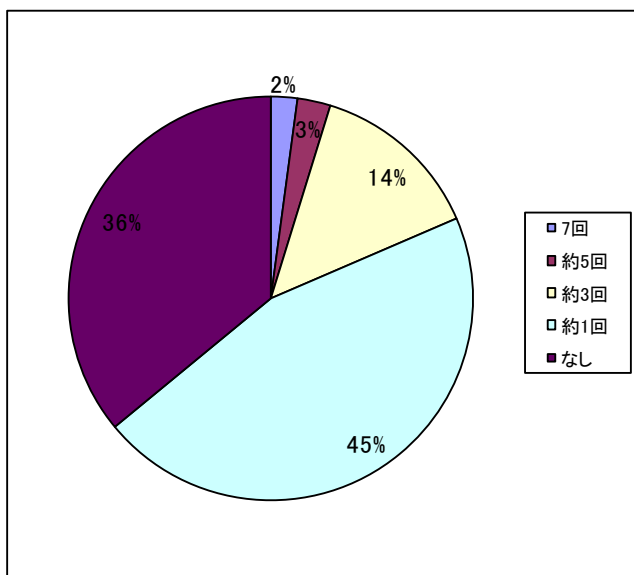


1時間以上	約30分	約15分	約5分	徒歩圏
69	42	53	14	32

⑥運動歴（1週間）

なしが37%であり、約1回を加えると81%である。
前年度結果より、大幅に運動歴が少ない傾向にある。

	7回	約5回	約3回	約1回	なし
小樽			3	13	4
札幌		1	7	10	37
鴨川	2		1	5	
大磯	1			8	1
中部					
相良			3	24	3
西伊豆		4	4	12	6
若狭和田					7
京都	1		2	2	4
岡山			2	6	3
北谷			4	6	3

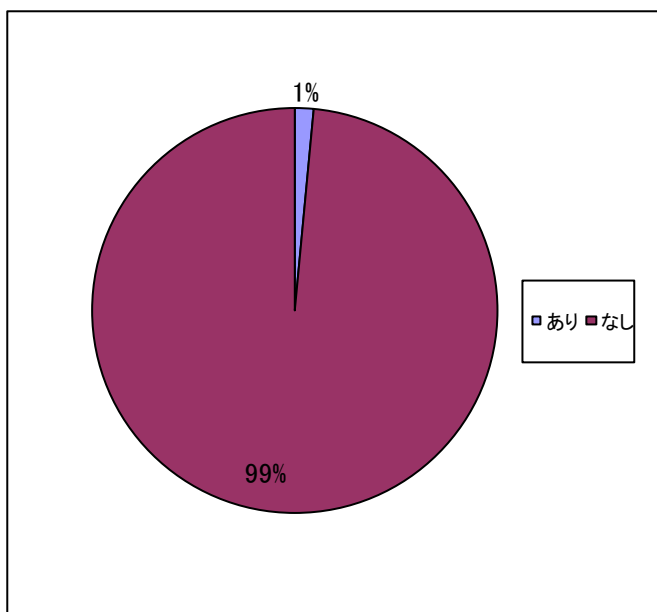


7回	約5回	約3回	約1回	なし
4	5	26	86	68

⑦ライフセーバー歴

なしが98%であった。前年度ほぼ同様の結果。ライフセービング活動未経験の保護者へのアプローチが重要であることが伺える。ライフセービング歴がなくても、子どもにジュニア教室を体験させたい要素があるのであろう。下記3) ③ジュニア教室参加のねらいの回答が参考になる。

	あり	なし
小樽		20
札幌		58
鴨川		13
大磯		10
中部		
相良	2	28
西伊豆		27
若狭和田		7
京都		9
岡山		14
北谷	1	12



あり	なし
3	198

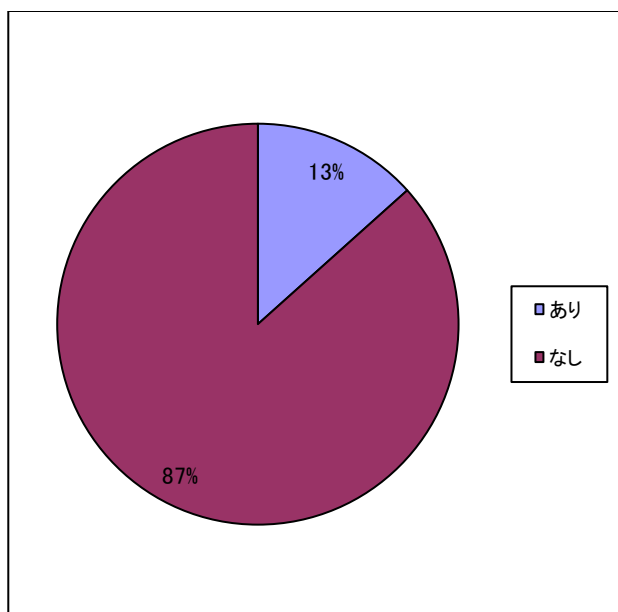
⑧応急手当資格取得

なしが 89%であった。前年度ほぼ同様の結果。

ライフセービング歴がなくても、資格取得している保護者がいることになる。

	あり	なし
小樽		20
札幌	7	50
鴨川		13
大磯	1	9
中部	2	
相良	10	20
西伊豆	3	24
若狭和田		7
京都	1	8
岡山	2	12
北谷	1	12

あり	なし
27	175



2) 参加者について

①学年

小学校 3・4 年生が 31%であり、小学校 1・2 年生を加えると 61%になる。

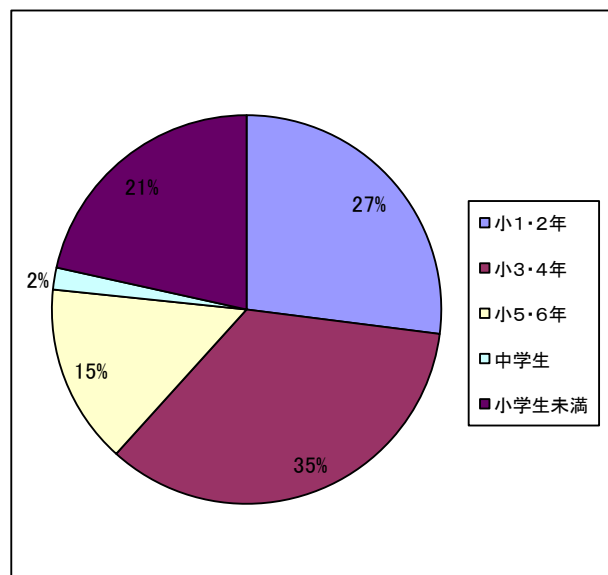
中学生は 2%であり、小学生未満は 22%である。

小学校低中学年層が多く、中学生は極少数である。

地域クラブによっては、小学生未満が多いところもありニーズがあることが伺える。

	小1・2年	小3・4年	小5・6年	中学生	小学生未満
小樽	3	8	7		2
札幌	19	23	12	2	23
鴨川	5	6	5		8
大磯	4	5	2		1
中部	13	10	2		9
相良	15	13	2		
西伊豆	4	10	3		10
若狭和田	1	4	2		
京都		5	3	2	
岡山	7	8			
北谷	3	3	3	1	6

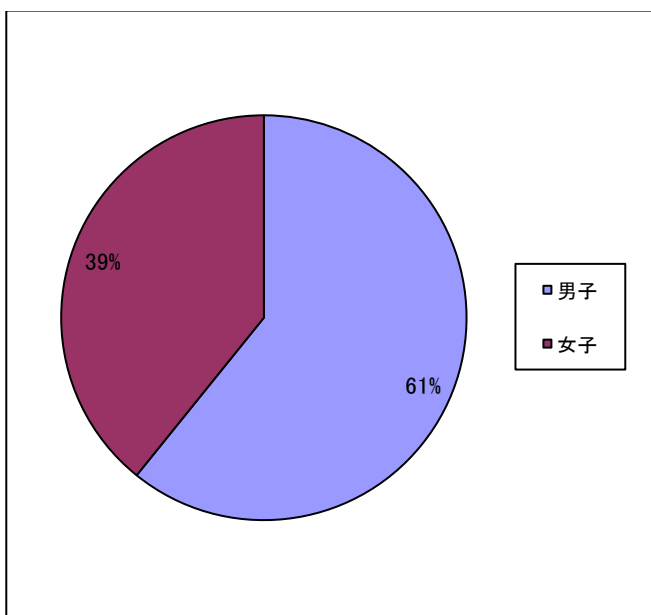
小1・2年	小3・4年	小5・6年	中学生	小学生未満
74	95	41	5	59



②性別

男子は 61%であり、女子は 39%である。前年度ほぼ同様の結果。

	男子	女子
小樽	8	12
札幌	43	23
鴨川	12	4
大磯	8	1
中部	17	17
相良	20	10
西伊豆	18	9
若狭和田	2	5
京都	7	3
岡山	9	6
北谷	8	8



男子	女子
152	98

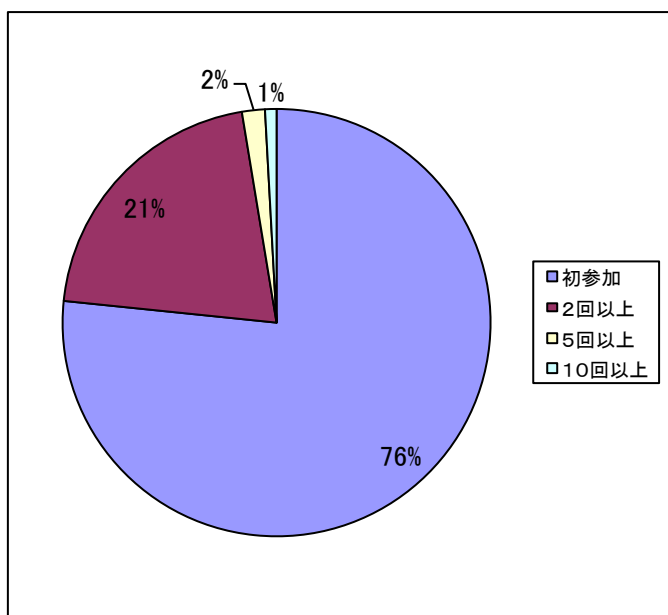
③ジュニア教室参加経験

初参加が 76%である。前年度より 15%増。

2 回以上～4 回以下は 21%であり、あわせると 97%であった。

新規参加者（子ども・保護者）獲得に向けた取り組みを継続することや、リピーターに対してのプログラム等の工夫が必要であると思われる。

	初参加	2回以上	5回以上	10回以上
小樽	20			
札幌	46	11		
鴨川	9	2		
大磯	3	4	2	
中部	27	7		
相良	10	18	2	
西伊豆	27			
若狭和田	7			
京都	8	1		
岡山	11	3		
北谷	9	2		2



初参加	2回以上	5回以上	10回以上
177	48	4	2

④運動・スポーツ経験

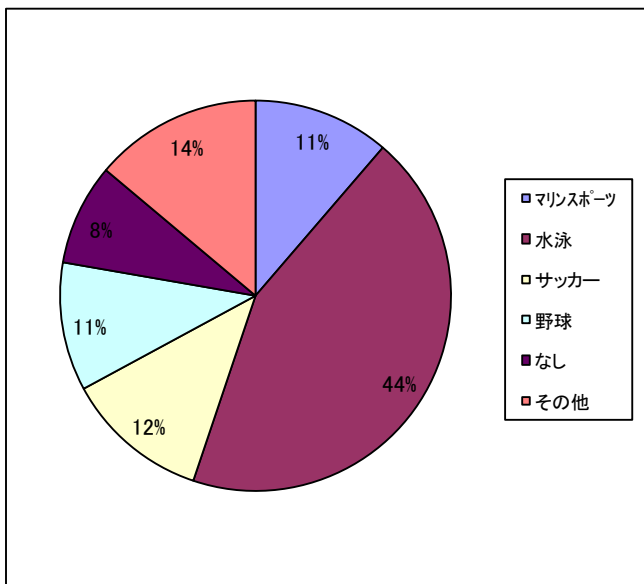
水泳が46%であり、マリンスポーツを加えると52%になる。

前年度ほぼ同様の結果。水に係わるスポーツ経験者が半数を超える状況から、今後も水に係わるスポーツ団体・個人にアプローチを深める必要があると思われる。

経験なしが14%であり、指導の際に体力面等を配慮する必要があると思われる。

前年度ほぼ同様の結果。

	マリンスポーツ	水泳	サッカー	野球	なし	その他
小樽	20	20				
札幌	1	44	4	6	7	7
鴨川	5	9	2	3	1	4
大磯	1	4		1	2	2
中部		5	3	4	5	17
相良		18	15	10		
西伊豆		10	4	3	4	
若狭和田		3			4	
京都	1	2	4	2		4
岡山	2	10	2	1	2	9
北谷	5	11	3	3	1	

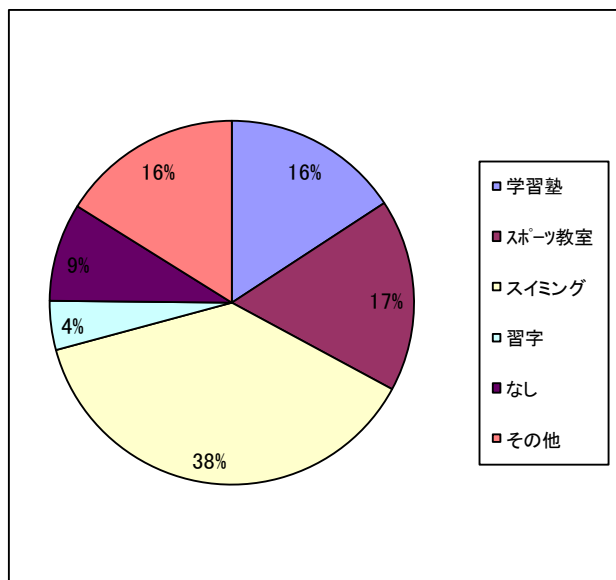


マリンスポーツ	水泳	サッカー	野球	なし	その他
35	136	37	33	26	43

⑤習い事

スイミングスクールが38%であり、上記④同様に団体・個人にアプローチを深める必要があると思われる。前年度ほぼ同様の結果。

	学習塾	スポーツ教室	スイミング	習字	なし	その他
小樽		15	20			
札幌	12	8	38	1	7	30
鴨川	6	1	6		2	4
大磯	4	2	6	1	1	2
中部						
相良	10	12	18	1		
西伊豆	4	6	10	4	7	
若狭和田			3	1	3	
京都	3	1	1	1	4	4
岡山	5	5	5	3	2	8
北谷	3	1	6	1		



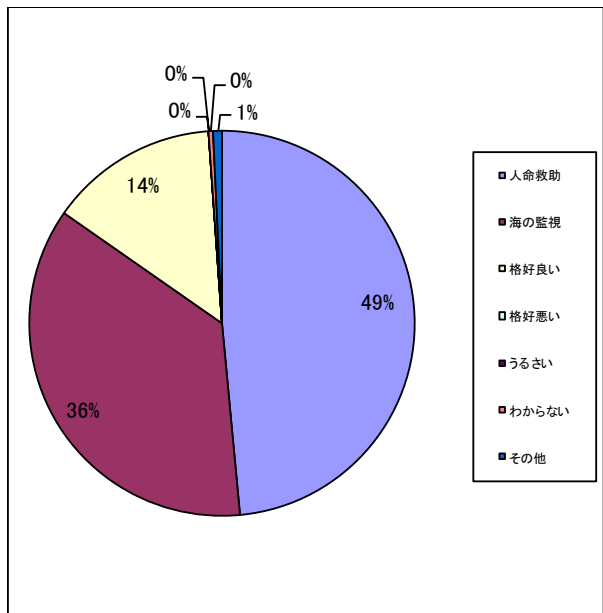
学習塾	スポーツ教室	スイミング	習字	なし	その他
47	51	113	13	26	48

3) ジュニア・ライフセービング全般について

①ライフセーバーのイメージ

人命救助が49%であり、海の監視を加えると85%になる。前年度同様の結果。
否定的な回答はゼロであり、正しく肯定的なイメージを持たれているようである

	人命救助	海の監視	格好良い	格好悪い	うるさい	わからない	その他
小樽	7	13					
札幌	44	30	14			1	
鴨川	12	8	4				2
大磯	7	6	2				
中部							
相良	23	20	10				
西伊豆							
若狭和田	4	3					
京都	9	1	3				
岡山	13	7	2				
北谷	11	9	3				



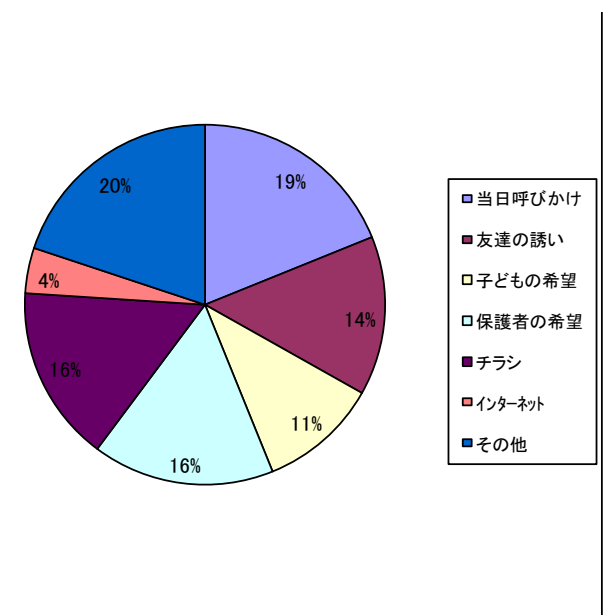
人命救助	海の監視	格好良い	格好悪い	うるさい	わからない	その他
130	97	38	0	0	1	2

<その他>影の主役・必要不可欠

②ジュニア教室 参加のきっかけ

当日の呼びかけが19%であり、その他が20%である。前年度ほぼ同様の結果。
当日の呼びかけにより、参加者を獲得することも可能であることがわかる。
その他の回答から、サークル活動イベントとの一環から口コミまで様々な取り組みや状況があるようである。今後も、告知を含めた参加者（子ども・保護者）獲得について工夫の継続が必要であると思われる。下記4)ジュニア教室の評価⑤告知の回答からも、工夫の余地が大いにある。

	当日呼びかけ	友達の誘い	子どもの希望	保護者の希望	チラシ	インターネット	その他
小樽		5			10	5	
札幌	1	7		12	2		30
鴨川	7	2	1				2
大磯				1	1		5
中部	11						
相良	10	3	15	7	10		
西伊豆							
若狭和田	1	2	2		2		
京都	5	1		2			1
岡山		5	1	7	4	2	1
北谷	2	3	2	3	2	1	



当日呼びかけ	友達の誘い	子どもの希望	保護者の希望	チラシ	インターネット	その他
37	28	21	32	31	8	39

<その他>サークルのイベント・数日前の呼びかけ・海の家誘い・ボーイスカウト活動・親戚の誘い・水泳コーチの勧め

③ジュニア教室 参加のねらい（キーワードを5つ選出）

「海の知識を学ぶ」が118ポイント（前年度62）で一番多かった。

続いて、「楽しさ」が92ポイント（前年度53）、「チャレンジ精神」が79ポイント（前年度43）、「自他の生命への尊重」が67ポイント（前年度67）、「安全の自律性」が66ポイント（前年度36）であった。

「再体験」「クラブの活性化」「ジュニア期の競技力向上」「ライフセーバーの獲得」等が5ポイント以下であった。

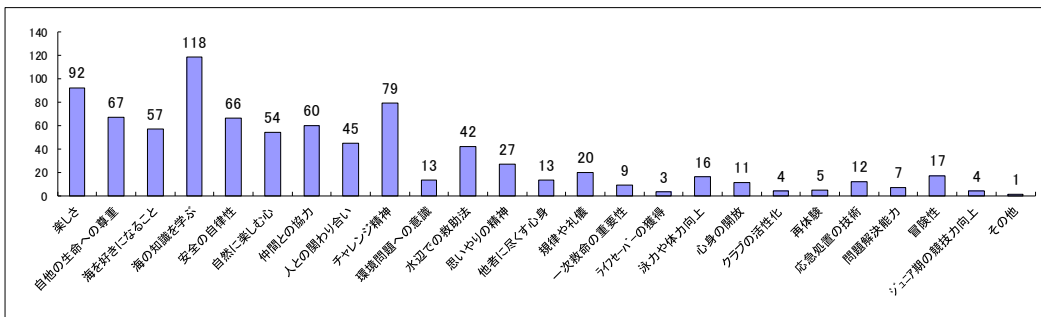
前年度と順位比較すると、「海の知識を学ぶ」「楽しさ」「チャレンジ精神」は、1・2・3位であり前年度同様の順位。「自他の生命への尊重」「安全の自律性」が5位以内になり、「海を好きになること」「仲間の協力」が5位以下になった。

また、5ポイント以下の「再体験」「ジュニア期の競技力向上」「ライフセーバーの獲得」は、前年度ほぼ同様の結果。

	楽しさ	自他の生命への尊重	海を好きになること	海の知識を学ぶ	安全の自律性	自然に楽しむ心	仲間の協力	人との関わり合い	チャレンジ精神	環境問題への意識	水辺での救助法	思いやりの精神	他者に尽くす心身	規律や礼儀	一次救命の重要性	ライフセーバーの獲得	泳力や体力向上	心身の開放	クラブの活性化	再体験	応急処置の技術	問題解決能力	冒険性	ジュニア期の競技力向上	その他
小樽	20			18	14	7	13	9	15									4							
札幌	24	27	15	30	21	10	12	5	16	1	22	5	7	7	3		7		4	1	9	3	6	2	
札幌	8	5	4	3	2	2	1	8	4		3	1	1	3	1	2	1	3		1			3	1	
大塚	6		6	3	2	4	1		4	2	1	1		1	1		2	1					1		
中部	2	4	6	5	2	6	2	3	5	6	1	4	2	3			1	1		3			4		
沼津	10	10	10	25	7	15	20	10	20	1	8	13			1										
西伊豆																									
新浜町	5	1	5	5	3	3	1	4	3					1			2								
京都	7	4	2	9	5	2	1	1	4	1			1	1		1							1		
岡山	2	9	3	12	10	2	8	2	4	1	7	2	1	2	2		1				3	4		1	
北谷	8	7	6	8	2	3	1	3	4	1		1	1	2	1		1	3				2		1	

<その他>マリンスポーツ体験

楽しさ	92	67	57	118	66	54	60	45	79	13	42	27	13	20	9	3	16	11	4	5	12	7	17	4	1
-----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	----	----	---	---	----	---	----	---	---



考察

考察する上で、平成18年度ジュニア・ライフセービング教育の実態調査報告書（日本財団助成）「地域クラブがジュニア教育の実施の際、教育のねらいとするキーワード調査結果」を示しておくことにする。高ポイントは、「楽しさ」「自他の生命への尊重」「海を好きになること」「海の知識を学ぶ」「安全の自律性」となっている。低ポイントは、「ジュニア期の競技力向上」「冒険性」「問題解決能力」「応急処置法の技術」「再体験の気持ち」となっている。

以上を比較すると、高ポイントでは、「海の知識を学ぶ」「楽しさ」「自他の生命への尊重」「安全の自律性」が合致した。この結果は、ジュニア教室に参加させる保護者のニーズと教育の意図としてのねらいがマッチしていたことになる。前年度は保護者の参加のねらいと教育のねらいにギャップが生じている状態であったが、結果として解消された。低ポイントでは、「ジュニア期の競技力向上」について、参加者・教育者が共にねらいとして重きを置いていない傾向にある。これは前年度同様である。現在のジュニア教室の実情を考えれば妥当である。スポーツ教育の観点としては、正しいライフセービング競技の普及・教育とそのシステム構築が必要であると思われる。

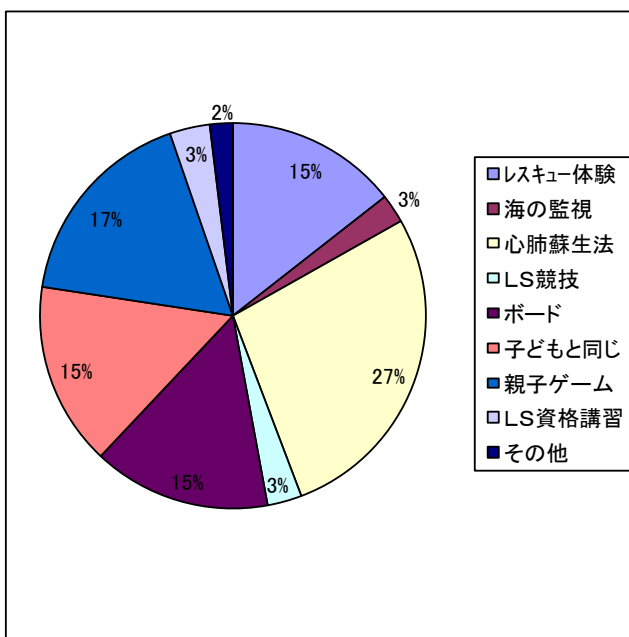
④保護者プログラムがあったら、どんなことをやってみたいか？

心肺蘇生法が28%、親子ゲームが18%、子どもと同じ・ボードが15%、レスキュー体験が14%であった。

前年度と比較すると心肺蘇生法が13%増、順位1位になる。

保護者が、心肺蘇生法を学ぶ機会が必要であると思われる。

	レスキュー体験	海の監視	心肺蘇生法	LS競技	ボード	子どもと同じ	親子ゲーム	LS資格講習	その他
小樽	2		15			3			
札幌	16	2	13		6	8	12	3	1
鴨川	4	1	1	2	7	2	6		
大磯	1		2		3		2		
中部		1	1		3	1	1		2
相良			15			12	3		
西伊豆									
若狭和田			3		1	2	1		
京都	1		2	1	2	2	3		
岡山	3	1	1	2	1		4	2	1
北谷	3		4	1	8	2	4	2	



レスキュー体験	海の監視	心肺蘇生法	LS競技	ボード	子どもと同じ	親子ゲーム	LS資格講習	その他
30	5	57	6	31	32	36	7	4

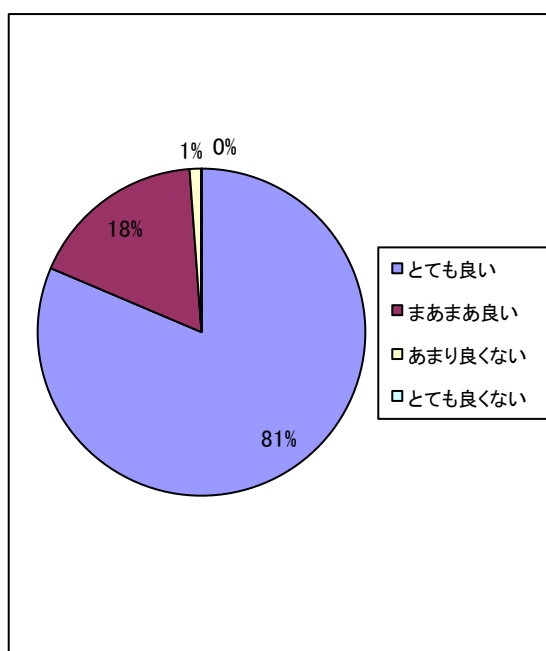
<その他>AED講習・プールでの親子教室

4) ジュニア教室の評価

①内容

とても良いが82%（前年度79%）であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
小樽	20			
札幌	40		12	1
鴨川	11		2	
大磯	6		1	
中部	6		3	1
相良	27		3	
西伊豆				
若狭和田	3		2	
京都	7		2	
岡山	13		1	
北谷	7		4	

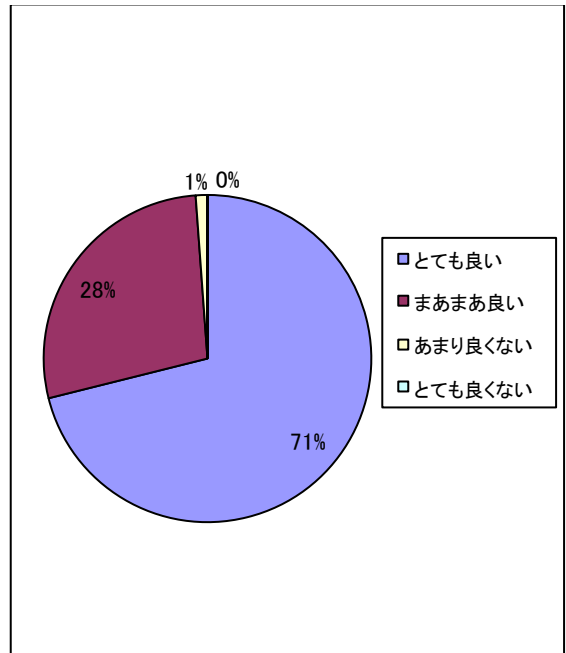


とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
140	30	2	0

②時間

とても良いが 68%（前年度 65%）であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
小樽	12	8		
札幌	34	19		
鴨川	11	2		
大磯	5	2		
中部	8	2		
相良	30			
西伊豆				
若狭和田	3	3		
京都	5	4		
岡山	10	3	1	
北谷	5	5	1	



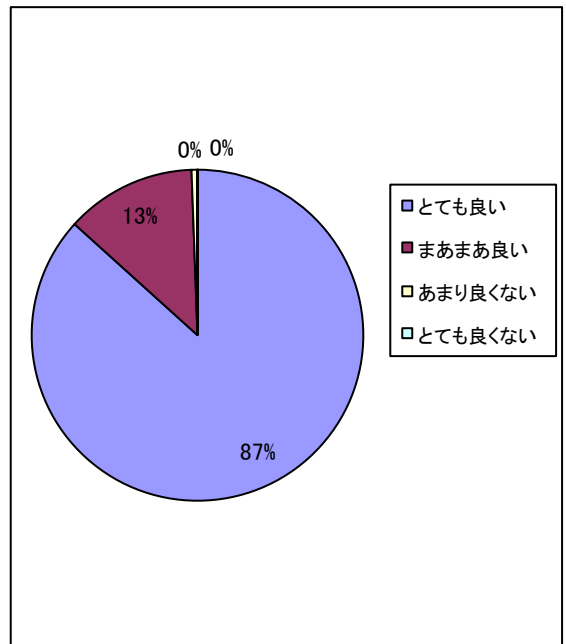
とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
123	48	2	0

<ご意見> 午前実施が良い

③場所

とても良いが 80%（前年度 74%）であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
小樽	20			
札幌	41	11	1	
鴨川	11	2		
大磯	6	1		
中部	10			
相良	30			
西伊豆				
若狭和田	5	1		
京都	6	3		
岡山	12	2		
北谷	9	2		

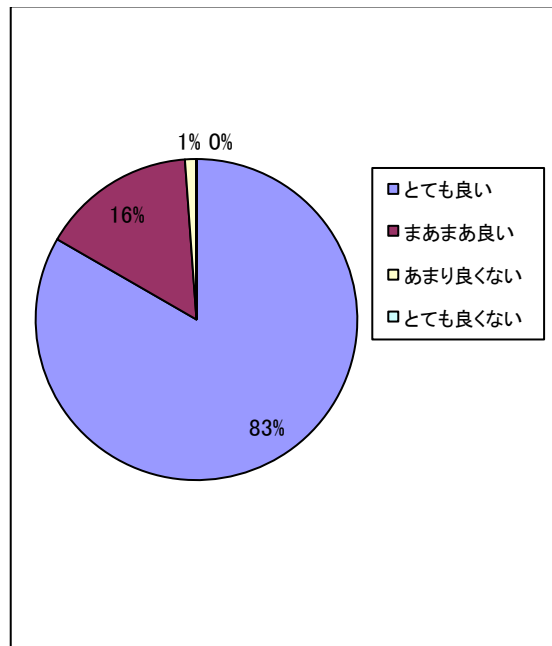


とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
150	22	1	0

④指導

とても良いが 83%（前年度 95%）であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
小樽	20			
札幌	44	10	1	
鴨川	13			
大磯	6	1		
中部	8	2		
相良	22	7	1	
西伊豆				
若狭和田	3	2		
京都	8	1		
岡山	13	1		
北谷	8	3		

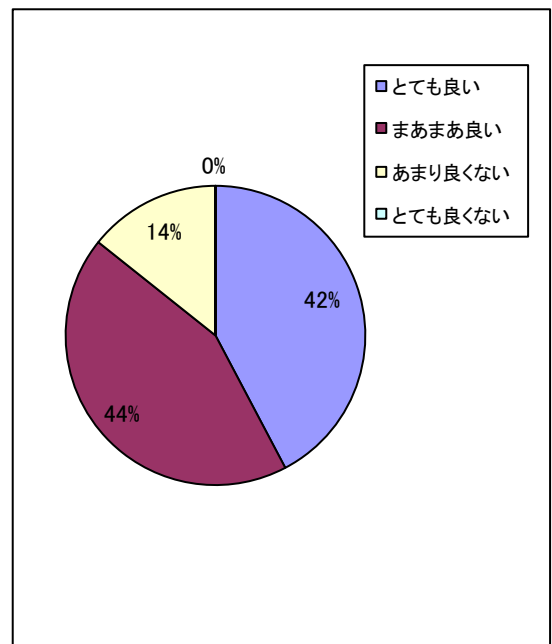


とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
145	27	2	0

⑤告知

とても良いが 42%（前年度 62%）であり、あまり良くないが 14%であった。
改善の余地がある。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
小樽	3	16	1	
札幌	41	14		
鴨川	5	5	3	
大磯	4	3		
中部	5	4	1	
相良	3	14	13	
西伊豆				
若狭和田		1	5	
京都	4	5		
岡山	7	7		
北谷	2	7	2	



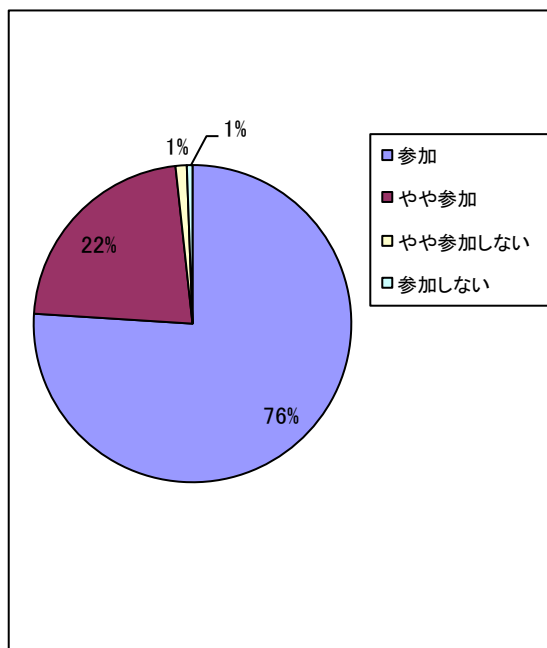
とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
74	76	25	0

<ご意見> 近くの学校に告知・海の家でユニホームにてアピール

⑥ 次回参加

参加が 76%（前年度 71%）であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	参加	やや参加	やや参加しない	参加しない
小樽	20			
札幌	41	9	2	
鴨川	9	4		
大磯	6	1		
中部	8	4		
相良	26	4		
西伊豆				
若狭和田	3	3		
京都	5	4		
岡山	9	5		1
北谷	6	5		



参加	やや参加	やや参加しない	参加しない
133	39	2	1

<ご意見> 小6なのでできない

4. 成果と課題

日本財団ジュニア教室保護者アンケートの目的のひとつである、「数値化を目指す」を具現化し 2 年目を迎えた。今年度は、アンケート回収が 1 クラブ増・回答者が 88 名増になり、アンケート集計結果の説得力が増したように感じる。また、前年度と比較検討することが容易になった。アンケート 23 項目中 15 項目が前年度とほぼ同様の結果であり、変化のあった項目には課題が伺えた。今後も継続することで、調査研究の基盤になると確信する。

ジュニア・ライフセービング教育の指導者資格体系を構築し、次年度本格運用するにあたり、保護者の意識調査の結果は非常に重要であり、反映させていかなければならないものである。保護者と指導者の意識やジュニア教室の目的が合致し、両者がクルマの両輪の如くバランスを保ちながら連動し、推進力となって子どもにアプローチすることが望まれる。その実現により、益々ジュニア教室に子どもを参加させる機会・環境が増し、子ども達の水辺の安全教育に好影響を与え、溺水事故の減少にも貢献できるであろう。

今後も継続した調査を実施することで、ジュニア教室に子どもを参加させる保護者の意識やニーズを探り、更なるジュニア教室の実施・検証を通して、ジュニア・ライフセービング教育の普及・発展を押し進め、子ども達への安全の自律性や事故防止の思想、自他の生命尊厳の教育体系化を目指したい。

5. 資料

資料① アンケート用紙

保護者アンケート（2011年度）

日本ライフセービング協会
ジュニア教育委員会

このたびは、ジュニア・ライフセービング教室に参加していただきありがとうございます。

今後のジュニア・ライフセービング教育発展のためアンケートにご協力ください。よろしくお願いいたします。
（保護者の方がご記入ください。該当する番号1つ〇印をしてください。その他はカッコ内にご記入ください。）

1. 保護者（回答者）についての質問です。

- 1) 参加者との関係 1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. その他 ()
- 2) 保護者の年齢 1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳以上
- 3) 休日の過ごし方 1. マリンスポーツ 2. アウトドア 3. インドア 4. 特になし
5. その他 ()
- 4) 海水浴の回数（1シーズン） 1. 10回以上 2. 約5回 3. 約3回 4. 1回 5. なし
- 5) 海までの距離（自動車にて） 1. 1時間以上 2. 約30分 3. 約15分 4. 約5分 5. 徒歩圏
- 6) 運動歴（1週間） 1. 7回 2. 約5回 3. 約3回 4. 約1回 5. なし
- 7) ライフセーバー歴 1. あり 2. なし
- 8) 応急手当資格取得 2. あり 2. なし

2. 参加者についての質問です。

- 1) 学年 1. 小学1・2年 2. 小学3・4年 3. 小学5・6年 4. 中学生 5. 小学生以下
- 2) 性別 1. 男子 2. 女子
- 3) ジュニア教室参加経験 1. 初参加 2. 2回以上 3. 5回以上 4. 10回以上
- 4) 運動・スポーツ経験 1. マリンスポーツ 2. 水泳 3. サッカー 4. 野球 5. なし
6. その他 ()
- 5) 習い事 1. 学習塾 2. スポーツ教室 3. スイミング 4. 習字 5. なし
6. その他 ()

3. ジュニア・ライフセービング全般についての質問です。

- 1) ライフセーバーのイメージ
1. 人命救助 2. 海の監視 3. 格好良い 4. 格好悪い 5. うるさい 6. わからない
7. その他 ()
- 2) ジュニア・ライフセービング教室 参加のきっかけ
1. 当日の呼びかけ 2. 友達の誘い 3. 子どもの希望 4. 保護者の希望 5. チラシ
6. インターネット 7. その他 ()
- 3) ジュニア・ライフセービング教室 参加のねらい （5つ〇印を記入）
1. 楽しさ 2. 自他の生命への尊重 3. 海を好きになること 4. 海の知識を学ぶ
5. 安全の自律性 6. 自然に楽しむ心 7. 仲間との協力 8. 人との関わり合い
9. チャレンジ精神 10. 環境問題への意識 11. 水辺での救助法 12. 思いやりの精神
13. 他者に尽くす心身 14. 規律や礼儀 15. 一次救命の重要性 16. ライフセーバー養成
17. 泳力や体力向上 18. 心身の開放 19. クラブ活動の一環 20. 再体験 21. 応急処置
22. 問題解決能力 23. 冒険性 24. ジュニア期の競技力向上 25. その他 ()
- 4) 保護者プログラムがあるとしたら、どんなことをやってみたいですか？
1. レスキュー体験 2. 海の監視 3. 心肺蘇生法 4. ライフセービング競技 5. ボード
6. 子どもと同じプログラム 7. 親子ゲーム 8. ライフセーバー資格講習 9. その他 ()

4. 本日のジュニア・ライフセービング教室についての質問です。

- 1) 内容 1. とても良い 2. まあまあ良い 3. あまり良くない 4. とても良くない
- 2) 時間 1. とても良い 2. まあまあ良い 3. あまり良くない 4. とても良くない
- 3) 場所 1. とても良い 2. まあまあ良い 3. あまり良くない 4. とても良くない
- 4) 指導 1. とても良い 2. まあまあ良い 3. あまり良くない 4. とても良くない
- 5) 告知 1. とても良い 2. まあまあ良い 3. あまり良くない 4. とても良くない
- 6) 次回参加 1. 参加 2. やや参加 3. やや参加しない 4. 参加しない

ありがとうございました。

ジュニア・ライフセービング指導者養成システムのプログラム開発

<実施報告>

1) ジュニア教育委員会(会議)での協議

- 年間を通じて委員会を開催し、2011年度の重点項目である「ジュニア指導者養成講習会」の実施プログラムについて協議した。
- 実施日
 - 04月10日
 - 05月10日
 - 06月18日
 - 07月13日
 - 08月23日
 - 09月15日
 - 10月27日
 - 11月08日
 - 12月04日
 - 01月14日
 - 02月04日
 - 03月09日
- 協議プロセス
 - 2005年度の調査研究を経て、「平成18年度ジュニア・ライフセービング教育の実態調査報告書」発行
 - 2005年度より日本財団助成「指導者養成システムの調査研究」の継続実施
 - 「2007年度 ジュニア・ライフセービング教育 指導指針」発行
 - 2008年度は指導指針を中心とした指導者研修会を実施。指導者養成に向けた具体的なカリキュラムの検討。小峯理事長を交えてジュニア委員会を実施、指導者の在り方についての方向性を議論
 - 2009年度はジュニア教室、参加保護者のアンケートなどにより、客観的に指導の在り方やニーズを検証。指導者養成を視野に入れたカリキュラムにて、関東、関西の2会場において指導者研修会を実施
 - 2010年度は、2011年度以降に立ち上げ予定のJLAアカデミー(現JLA資格認定講習会)のジュニアライフセービング・インストラクターを始めとした指導者資格の体系、プログラム内容、受講条件等の精査を実施し、ジュニア指導者資格の運用に向けての議論を重ねた
 - 2011年度は2012年度からの実施に向けた「JLAアカデミー/ジュニア指導者養成講習会」のプレ講習会を開催し、カリキュラム等の精査を実施した
 - 2012年度から「JLAアカデミー/ジュニア指導者養成講習会」にて以下の資格体系をスタートする
 - ◇ ジュニアライフセービング・サポーター
 - ◇ ジュニアライフセービング・リーダー
 - ◇ ジュニアライフセービング・アシスタントインストラクター
 - ◇ ジュニアライフセービング・インストラクター
- (2010年度までの議論)指導者資格の存在意義と課題
 - (仮称) ジュニア・ライフセービング インストラクター
 - ◇ 資格コンセプト
 - 『JLA活動における「教育」の在り方を理解し、あらゆる環境下(水辺に限定されない)において子どもの発育発達に応じた体験活動を実施し、ライフセービングの精神を正しく伝えていける情熱と資質を高めていく』
 - ◇ そうすることで…
 - 子どもを指導する責任感を高め、社会的認知を積み上げる(保護者への対応)
 - 地域クラブにおける継続可能なジュニア活動の展開が可能(指導者の質を確保)
 - 学校教育、他団体交流への展開を視野に入れた活動実践
 - 指導指針に基づく基本姿勢と、地域を生かしたオリジナリティーとの共存共栄
 - 指導者ネットワークの構築と研修の場の創造(研究発表・指導者交流)

◇ 課題

- 国際ライフセービング連盟(ILS)資格との連動をあらかじめ視野に入れるかの検証
- 受講条件の検討・他資格との連動性
- 教科書や副教材の開発
- ジュニアの現場における資格所持者と未取得者の在り方
- 指導者研修会の検証
- 指導指針の改定(指導者の教本にリンク)
- 子どもたちが取得するジュニア資格の検討
- ジュニア指導者資格の受講条件
- 講習会内容

➤ ジュニア教育指導者養成のガイドライン策定(案)

◇ 専門カリキュラム

- ジュニア・ライフセービング概論
- 乳児・幼児CPR
- 教育(学習指導要領)について
- ワークショップ (3つのテーマに沿ってのレクリエーション、ジュニア教室のマネジメント)
- 障害児の対応について (「福祉」を視野に含めたテーマ)

◇ 現代の子ども事情～日本の子どもたち～

◇ ことばと指導法

◇ 子どもとライフセービングスポーツ

<専門カリキュラム・例>

■ ジュニア・ライフセービング概論(案)

タイトル	項目	時間		目標と内容
		学科	実技	
	導入			今夏の夏のジュニア教室や競技会の実績に触れ、協会を代表し感謝申し上げる。
日本の子どもたちとライフセービング	事故防止の精神を社会へ	10	0	JLAミッションにおけるジュニア教育の理念を伝え、ジュニア目標についても再認識いただく。
	ジュニア・ライフセービング教育の現状		0	体験活動としての社会的認知から、次なるステージへ(地域性を高め、再体験の気持ちを満たせる活動形態へ)
	指導指針発行の経緯と今後の課題整理		0	指導指針発行の経緯を理解し、今後の課題を共有する
ジュニア・ライフセービング教育の可能性	継続的活動の効果	10	0	地域性を生かした活動から得られる可能性。ライフセーバーの再活動の場となり得る。相乗効果を期待。ライフセービングという題材そのものが指導者にとっての「危機管理」となり、学ぶ子どもたちにとっての「危機回避」につながる。
	地域ジュニアを核とした広がり		0	「いつでも、どこでも、だれにでも」を基本においた活動姿勢。他団体との共存共栄。
	学校におけるジュニア教育		0	実践例をもとに、その実施形態を認識いただく。また協会としてもそのニーズに対応しうる指導者の質を確保していきたい。指導者養成について触れる。
	まとめ			ジュニア教育は“事故を未然に防ぐ”という協会理念と合致する。「事故を起こさない人」を多く輩出していく。全国地域の各クラブにジュニアの категорияが定着していくことを展望としたい。
合計		20	0	
		20		

■乳児・幼児CPR(案)

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
ジュニア教室 現状	CPRコンテストの現状	8	0	全日本、学生選手権でのCPRコンテスト結果をもとにライフセーバーのCPR手技の現状を知る。		・パソコン ・プロジェクター
	CPR年齢区分			CPR年齢区分を理解する。		
	第一三共ジュニア教室参加者区分			ジュニア教室に参加している子どもの区分を知る。		
	指導者の任務について			水泳指導者を例に、指導者の任務は「安全管理」が優先されることを理解する。		・水泳指導教本 P37
小児・乳児CPR	一次救命処置の年齢別比較	10	0	一次救命処置の年齢別比較表をもとに技術の確認を行う。 同時に小児のデモンストレーションを行う。		・資料配布 心肺蘇生法教本 P24 ・レサージュニア ・AED(小児用パッド含む)
	まとめ	1		小学生が父親を救命した事例をあげ、ジュニア教室で子どもたちに救急法の技術伝達の必要性を確認する。		
	合計	19	0			
			19			

■教育(学習指導要領)について(案)

【教育法規】

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
教育法規	日本国憲法	2	0	日本国憲法における我が国の教育にかかる条文について理解する。		教育小六法等
	教育基本法	8	0	第一章 教育の目的及び理念 教育の目的／教育の目標／生涯学習の理念／教育の機会均等 第二章 教育の実施に関する基本 義務教育／学校教育／大学／私立学校／教員／家庭教育／幼児期の教育／社会教育／学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力／政治教育／宗教教育 第三章 教育行政 教育行政／教育振興基本計画 第四章 法令の制定 以上について、理解する。		小学校学習指導要領
	学校教育法	3	0	第二章 義務教育 第四章 小学校 第八章 特別支援教育 以上について、理解する。		小学校学習指導要領
	学校教育法施行規則	2	0	第四章 小学校 第二節 教育課程 第八章 特別支援教育 附則 以上について、理解する。		小学校学習指導要領
	合計	15	0			
			15			

【教育・指導要領】

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
幼稚園教育要領		0	0	第1章 総則 第1 幼稚園教育の基本 第2 教育課程の編成 第3 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など 以上について、理解する。		幼稚園教育要領
小学校学習指導要領		5		第1章 総則 第1 教育課程編成の一般方針 第2 内容等の取扱いに関する共通的事項 第3 授業時数等の取扱い 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項 以上について、理解する。		小学校学習指導要領
中学校学習指導要領		0	0	第1章 総則 第1 教育課程編成の一般方針 第2 内容等の取扱いに関する共通的事項 第3 授業時数等の取扱い 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項 以上について、理解する。		中学校学習指導要領
	合計	5	0			
			5			

【指導法】

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
指導計画作成	指導案の作成	5		ジュニア・ライフセービング教育指導指針に基づいた指導案を作成する。		ジュニア・ライフセービング教育指導指針
指導実践	指導案に基づいた指導実践	5	30	指導案に基づいた指導を実践する。		
指導評価	指導と評価	5		指導案に基づいた指導実践を評価する。		
指導総括	指導の総括	5		計画・実践・評価をもとに次につなげるための総括を行う。		
指導方法	実態把握と導入	5		対象者の実態把握とそれに基づいた導入について理解し、実習する。		
	全習法と分習法	5		2通りの学習伝達方法を理解し、実習する。		
	チーム・ティーチング	5	30	チーム・ティーチングについて理解し、実習する。		
	配慮を要する対象者	5		配慮を要する対象者について理解する。		
合計		40	60			
			100			

【マネジメント】

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
マネジメント	イシュー・マネジメント リスク・マネジメント クライシス・マネジメント 同意書	20	0	イシュー・マネジメント、リスク・マネジメント、クライシス・マネジメントについて理解し、ジュニア・ライフセービング教育に係るマネジメントについて考える。		【参考文献】 「説明責任」とは何か (PHP新書)井之上喬
	同意書	10	0	参加者(児童、生徒)の保護者に対する「同意書」作成について理解する。		
	プログラム実施判断基準	20	0	天候不順等の環境要因による実施判断について理解する。		【参考資料】 岩井臨海学園指導員マニュアル ジュニア・ライフセービング 競技会実施規程
合計		50	0			
			50			

■ 障害児の対応について(案)

【特別支援教育】

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
特別支援教育	いのちについて	3		「生かし合う・高め合う教育」について		
	特別支援教育	6		特別支援教育の基本的な考え方を知る		
実態把握	全人教育	2		全人教育による視点知る		
	実態把握のポイント	3		実態把握する上でのポイントを知る		
支援の仕方	声かけの基本	3		支援が必要な人に対しての声かけの配慮事項を知る		
	プログラムに入る前に	3		プログラムに入る前の注意点を知る		
合計		20				
			20			

■ 現代の子ども事情(案)

【子どもと社会】

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
子どもと社会	子どもの現状	5	0	子どもの死生観を通して現状を学び、子どもを理解する。		
	子どもと環境の変化	15	0	子どもを取り巻く社会環境の変化を学び、子どもを理解する。		
	日本と世界の子ども	15	0	日本や世界の子ども達について学び、子どもを理解する。		
	子どもと親(保護者)	15	0	子ども親(保護者)の関係や現状を学び、子どもを理解する。		
合計		50	0			
			50			

【子どもの特徴】

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
子どもの特徴	子どもの成長	5	0	子どもの健全な成長について学び、子どもを理解する。		
	子どもの心	15	0	思春期について子どもの現状を学び、子どもを理解する。		
	子どもの身体	15	0	発育発達について子どもの現状を学び、子どもを理解する。		
	コミュニケーション	15	0	コミュニケーションについて子どもの現状を学び、子どもを理解する。		
合計		50	0			
			50			

■ことばと指導法

【ことば・指導法】

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
二つのことば	ことば(文字言語) ことば(音声言語)	6	2	文字言語と音声言語の特性に気付き、それらを効果的に活用しながら伝えることの重要性について理解する。	「ことば」を扱う講義であることを意識し、伝達者の実例を演じる。	スライド 文字を書いた紙
ことばと「伝わる」ということ	ことばと伝達	4	0	ことばを使用する場合と使用しない場合の効果の関係性に気付き、それを応用して伝える技術の大切さを理解する。	文字言語を活用した伝達方法の実例として、音声言語を使用せず、スライドのみで展開する。	スライド
ことばのキャッチボール	受け手に適応した情報発信とコミュニケーション	6	2	受け手に応じた情報発信方法の選択の重要性に気付き、双方向のコミュニケーションの大切さを理解する。	受講者とのキャッチボールを実演する中で体験的理解を図る。	スライド 柔らかいボール もしくはぬいぐるみ
合計		16	4			
		20				

■子どもとライフセービングスポーツ・競技

タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
ライフセービングとスポーツ	ライフセービングはスポーツか？	5	0	ライフセービング競技の歴史を知り「ライフセービングとは何か？ライフセービング競技とは何か？」について考える。ジュニア・ライフセービング競技会の目的や全日本選手権の参加条件を確認する。		スライド
子どもにとってのライフセービングスポーツ	ライフセービングスポーツによって得られること	5	0	ライフセービングスポーツによって得られることについて考える。岩井臨海学園のアンケート結果を参考に、子ども達がどんなことを楽しみにしているか、または苦手と捉えているかについて考える。		スライド
ジュニア指導者としてのライフセービングスポーツ	指導者としての留意点	5		指導者としてライフセービングスポーツを実施する際の留意点や競技会の審判員としての心得えについて考える。		スライド
合計		0	0			
		15				

2) ジュニア教室・現地視察の実施

● ジュニア教室・現地視察の実施

- ジュニア教室をジュニア教育委員が現地視察し、指導指針の普及と検証を実施

日時:平成23年8月14日(日) ①11:00～12:30 ②13:00～16:30

場所:静岡県沼津市 島郷海水浴場

対象:未就学児・小学生

指導者: 日本ライフセービング協会インストラクター 重友章宏

日本ライフセービング協会インストラクター 石原進介

参加者: ①6名(小学1～3年 4名、4～6年 2名)

②12名(小学1～3年 5名、4～6年 7名)

使用器材:レスキューボード2本、レスキューチューブ5本

<活動内容(①、②ともに共通)>

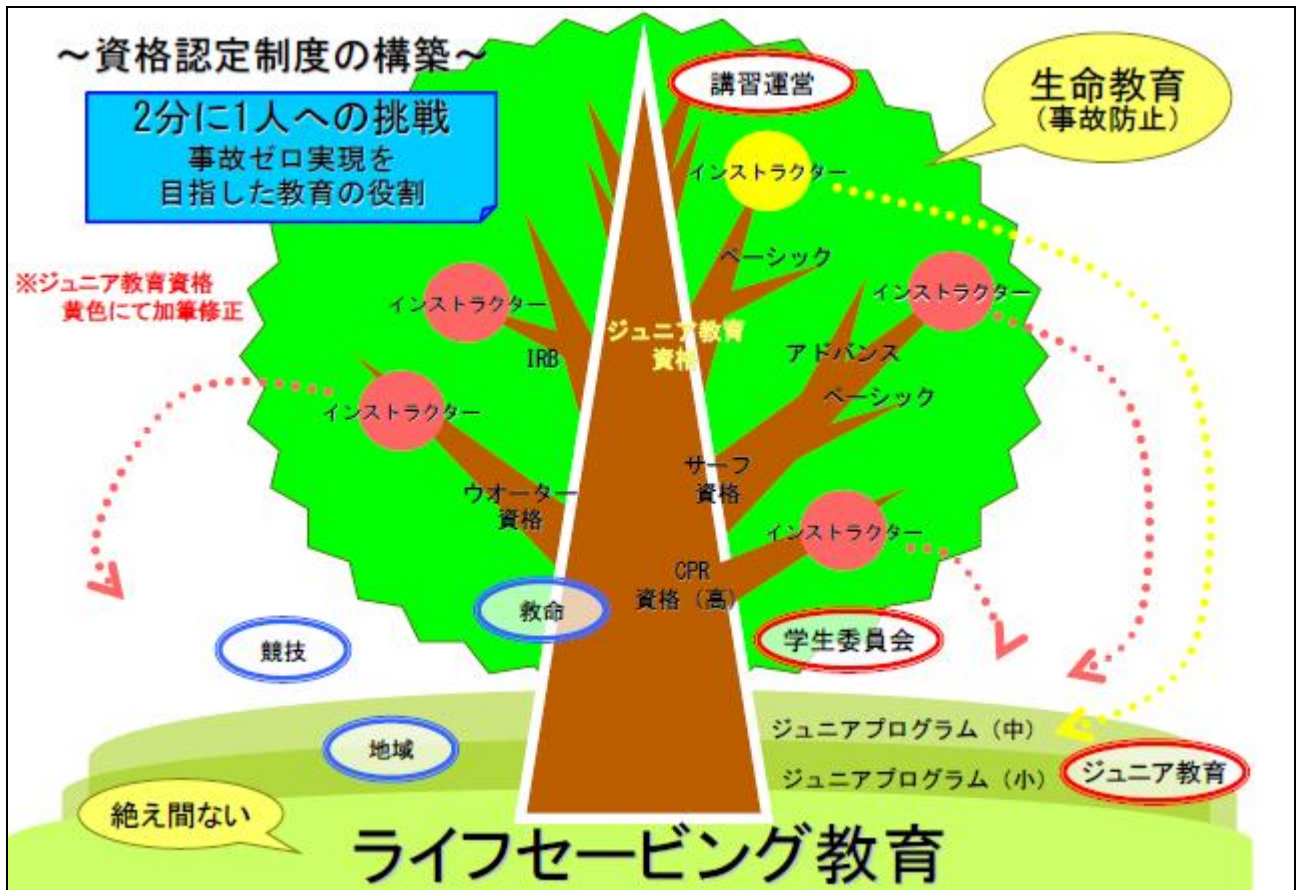
	活動	活動内容	
はじめ	あいさつ 海のルールを知る	ライフセーバーの役割や海でのルールを伝える。 バディシステムの導入。	人との関わりあい 命の大切さ
なか	海を知ろう	波打ち際でおにごっこをし、砂浜と水中での走り方の違いを知る。 波に浮かび、プールとの違いを体感する。	楽しさ 人との関わりあい
	仲間と海を楽しもう	バディで手をつなぎ、手を離さずにウェーディングをし、砂浜に戻ってくる。	楽しさ 人との関わりあい 命の大切さ

	レスキューボードに乗ってみよう	仲間全員でレスキューボードに乗り、前進する。	楽しさ 人との関わりあい 命の大切さ
おわり	自然と仲間感謝しよう	海と家族、友達に感謝の気持ちを伝える。	人との関わりあい 命の大切さ

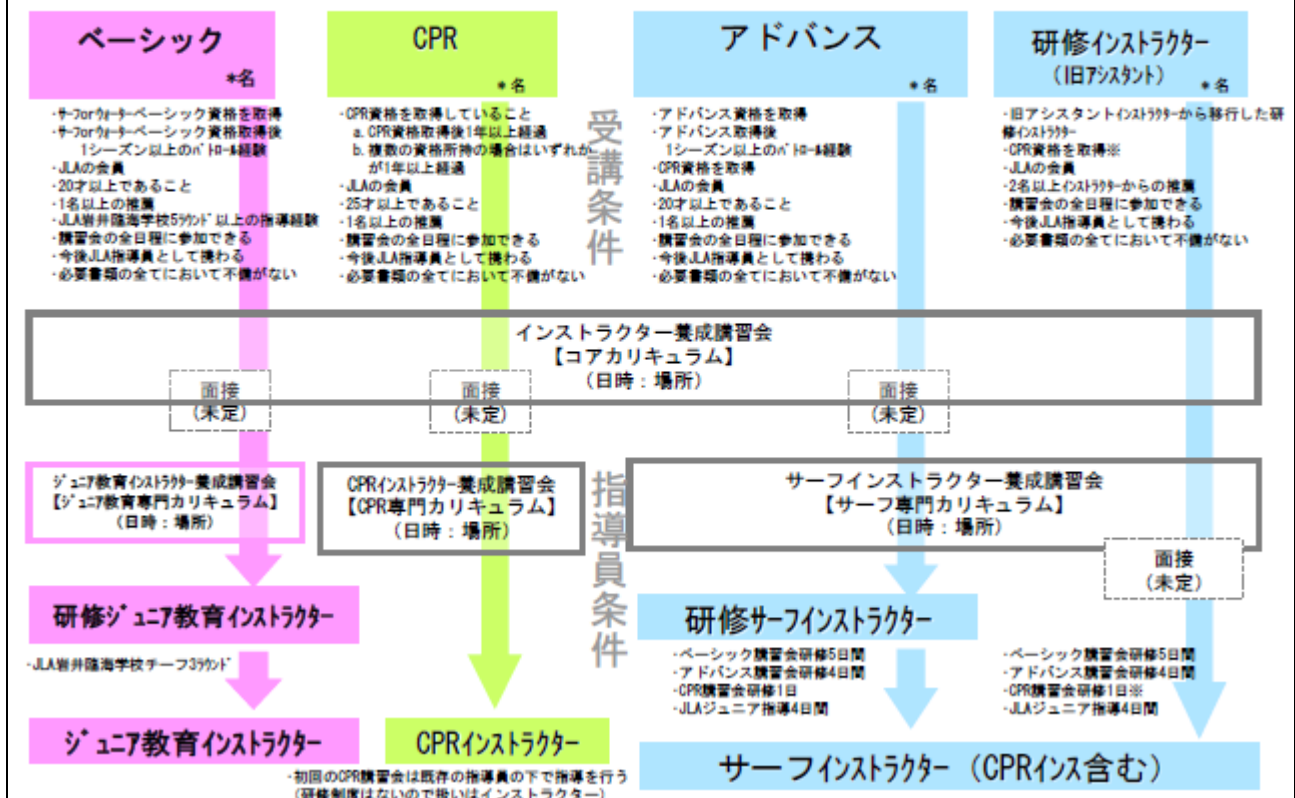
<視察を通して>

ジュニア教室の運営には、指導者2名をはじめ、学生スタッフ3名も参加し、ジュニア教室へ力を入れようという熱意を感じた。また、参加者の多くは、海水浴初心者ということもあり、丁寧な指導を心掛けている様子とともに、海に親しみ、海の楽しさを知ってほしいという指導者の思いが伝わるジュニア教室であった。今後も、継続的な指導を行っていただけるよう願っている。(視察:岡田早織委員)

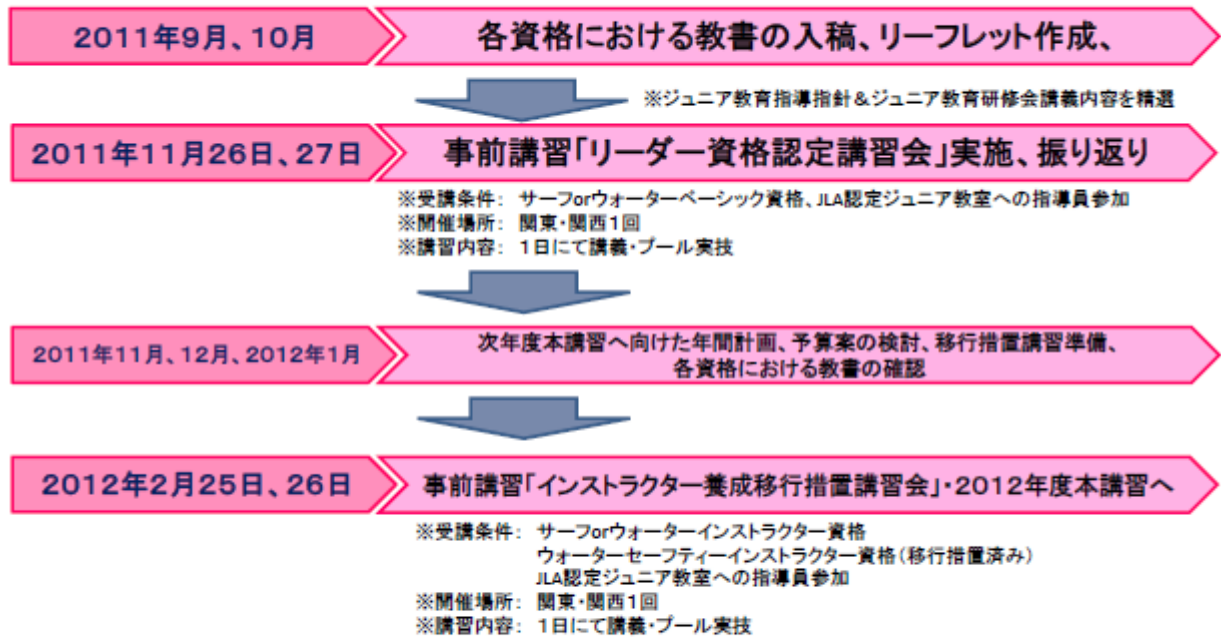
3) 「ジュニア指導者養成講習会」の資格体系



ジュニア教育インストラクター養成講習会<案> (インストラクター養成講習会の流れ2008に加筆修正)

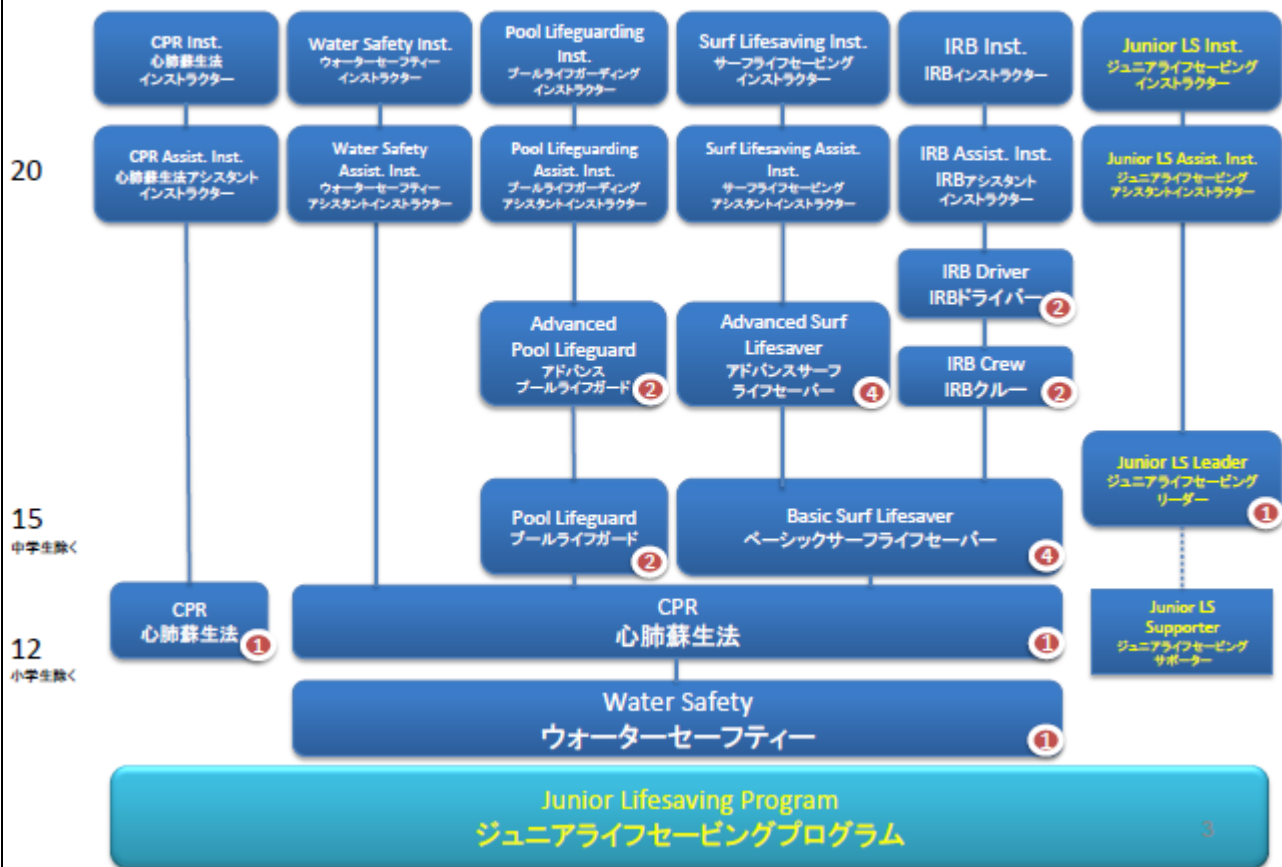


◆2011年度ジュニア指導者資格の展開に向けたロードマップ (2011年9月～2012年3月版)



<8月末現在の検討課題として>

- ・新資格全容の周知と認定講習・特別移行措置講習の告知のタイミング
 - ・ジュニア教育インストラクター養成移行措置講習会に向けた、ウォーターセーフティーインストラクター資格移行措置との関係
 - ・講習開催場所の確保(例：流通経済大学、東京スポーツレクリエーション専門学校、大阪体育大学、神戸YMCA学院専門学校など)
 - ・現段階でのジュニア教育インストラクター養成講習指導者(ジュニア教育委員)の研修と講習内容・プログラムの構築
- 以上、JLA資格検討委員会・JLA academyとの調整・連携を語りながら展開していく。



ジュニア・ライフセービング教育 指導者資格の意義

日本ライフセービング協会(以下JLA)ミッションにおけるジュニア・ライフセービング教育(以下ジュニア教育)の理念は、「安全の自律性」と「生命の尊厳」を伝え広めていくことである。また、JLAジュニア教育のねらいとして「水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わり合いを学び、相互理解からいのちの大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す」を掲げている。それらを具体化し教育実践を可能にする資格として『ジュニア教育指導者』が存在する。

ジュニア教育指導者は、日本財団助成を賜りながら発行させていただいた「JLAジュニア教育指導指針」に精通しつつ、さらなるジュニア教育の発展に邁進する意欲ある姿勢が望まれる。その姿勢が子どもに良い影響を与え、相乗効果を生むことは間違いないだろう。

資格は「たくましく豊かな人間形成」を実現する取り組みの中で、『人づくり』に積極的に寄与するものである。その意味を理解した「ジュニア教育の専門的プログラム」を展開できる多くの指導者が輩出されることは、わが国の水辺教育を手段とした青少年育成につながることになる。単なる知識・技術指導に偏ることなく、ライフセービングの精神性を子どもに正しく伝え、育むことが使命である。すなわち『生命教育』の教育者としての資格なのである。

ジュニア教育を通して、ライフセーバーから子どもたちへ、そして子どもたちから仲間への『教育の連鎖』が実現することで、「人と人が支え合う社会創造」を可能にしたい。

ジュニア・ライフセービング教育の在り方 ～生命教育としての自律を目指す～

- **Anytime (いつでも)**

夏に限定されることなく、年間を通した活動を目指します。

- **Everywhere (どこでも)**

様々な環境における教育プログラムを構築していきます。

- **Everyone (だれにでも)**

1人でも多くの子どもたちに“いのちの大切さ”を伝えていきます。

ジュニア教育指導者資格 一覧表 (2012年2月現在)

	サポーター	リーダー	アシスタント	イントラ
役 割 (ジュニア教室の指導)	Jr.教育の支援 JLAの応援	Jr.教室の指導 (修了証発行可) 指導計画の作成	Jr.教室の運営・指導 イントラ補助 指導計画の立案・作成	Jr.教室の運営・指導 委員会WGメンバーへ 指導計画の立案・作成
役 割 (ジュニア指導者の養成)			サポーター育成 (修了証発行可) イントラ補助	リーダー講習会の 運営・指導・合否判定 (サポーター育成会)
年 齢	15歳以上	15歳以上	20歳以上	
時 間	3h	7h (プ2講2フ2検1)	14h (海3講4フ6検1)	
条 件	興味・関心	WS+BSL or PLG (PLG海活動制限あり) 1シーズンP経験	Jr.リーダー10h経験 WS AI+CPR AI 推薦	Jr.アシスタント JLA Jr.教室20h経験 サポーター講習& リーダー講習補助 1回
検 定	なし	あり 1)学科 10問 2)実技 ①ワークショップ ②CPR実習 ③WS Jr.指導実習	あり 1)学科 20問 2)実技 ①ワークショップ ②小児・乳児CPR実習 ③サーフS Jr.指導実習 3)口頭試問・面接	指導実績による 昇格認定
形 態	修了証 任意会員	資格 会員	資格 会員	資格 会員
費 用	未定	未定	未定	未定

ジュニア・ライフセービング・サポーターの役割

- ジュニア教育の支援・**JLA**の応援
《主役は子ども達！》
- ジュニア教室の環境づくり(指導者の補助)
《指導はリーダー・インストラクター》
- ライフセービングの理解
- クラブやコミュニティとの連携



ジュニア・ライフセービング・リーダーの役割

- 子ども達への直接的な指導
- ジュニア・ライフセービング・サポーターとの協同
- **JLA**ジュニア教育プログラム修了証の発行
- 水辺の安全教育の実践と研究

ジュニア・ライフセービング アシスタントインストラクターの役割

＜ジュニア教室の指導＞

- ジュニア教室の指導運営
- ジュニア・ライフセービング・サポーター・リーダーとの協同
- 水辺の安全教育の実践と研究

＜ジュニア指導者の養成＞

- ジュニア・ライフセービング・サポーター養成講師
(修了証発行)
- ジュニア・ライフセービング・インストラクターの補助

ジュニア・ライフセービング・インストラクターの役割

＜ジュニア教室の指導＞

- ジュニア教室の指導運営と企画(クラブ主催)
- 水辺の安全教育の実践と研究

＜ジュニア指導者の養成＞

- サポーター&リーダー講習会の企画・運営・講師・検定

＜将来的に・・・＞

- 各クラブ1名以上の資格保持者を。
- ジュニア教育委員会のWGメンバーへ。

ジュニア・ライフセービング教育 指導シラバス (案)

【ライフセービング概論(サポーター)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
ライフセービング概論	はじめに	2	0	日本ライフセービング協会がサーフライセーバー資格などの講習を普及する目的について説明する。		JLAリーフレット
	ライフセービングとその活動	10	0	ライフセービングの基本概要を理解し、その活動に携わることの意義を理解する。		ジュニアライフセービング・リーフレット
	教育活動としてのライフセービング	3	0	自分自身が水辺の事故を起こさない、自分の命は自分で守るという安全教育が事故防止のために重要であることを理解する。		LIFESAVINGテキストブック
合計		15	0			
		15				

【ジュニア教育概論(サポーター・リーダー・インストラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
ジュニア教育概論	ジュニアプログラムのコンセプト	5	0	JLAジュニア・ライフセービング教育のコンセプト(3つの柱)について理解する。		ジュニア・ライフセービング教育指導指針
	ジュニアプログラムのねらいと展望	4	0	ジュニアプログラムのねらいとターゲットゾーンについて理解を深め、資格取得や競技会参加等へ移行していくことを理解する。		
	安全の自律性	3	0	「助ける」より「守れる」教育を主軸とすることを認識する。		
	ジュニア・ライフセービング教育におけるCPR	3	0	「関わりあい」「個性・人格」「尊重・尊厳」のCPRIについて理解する。		
合計		15	0			
		15				

【サポーターの役割と心掛け(サポーター)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
サポーターの役割と心掛け	ジュニア資格の意義	3	0	ジュニア・ライフセービング教育に関する資格の意義について理解を深める。生命教育としてのライフセービングを知る。		リーフレット
	サポーターのあり方	5	0	ライフセービングをテーマに、季節や水辺に限定されることのない「生命教育としての自律」を目指していることについて理解する。		
	サポーターの役割	5	0	ライフセービングに関わる人々の関心・意欲を高めるとともに、メンバーを拡大することが、ライフセービングの普及に大切であることを理解する。		
	サポーター用品の取り扱い	2	0	サポーターに支給される物品の取り扱い(着用・利用の制限、譲渡・転売の禁止など)について理解する。		リーダー用品
合計		15	0			
		15				

【水辺の安全(サポーター)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
水辺の安全	安全の自律性	10	0	「助ける」より「守れる」教育を主軸とすることを認識するとともに、子どもに「自助」意識を持たせることの必要性を理解する。		LIFESAVINGテキストブック
	率先避難者	2	0	万が一の事態では、率先避難者となることの理解と、その方法について考える。		
	海の知識・水の特性	3	0	海の基礎知識と水の特性を理解する。		ジュニアテキスト
合計		15	0			
		15				

【リーダーの役割と心掛け(リーダー)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
リーダーの役割と心掛け	ジュニア資格の意義	3	0	ジュニア・ライフセービング教育に関する資格の意義について理解を深める。		
	リーダーの役割	5	0	子どもたちに、ライフセービングスピリットを伝え、安全の自立性を育むことが役割であることを理解する。		
	リーダーの心掛け	5	0	日本ライフセービング協会の指導者であることを自覚し責任を持つ。		指導員の心得
	リーダー用品の取り扱い	2	0	リーダーに支給される物品の取り扱い(着用・利用の制限、譲渡・転売の禁止など)について理解する。		リーダー用品
合計		15	0			
		15				

【子どもについて(リーダー)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
子どもについて	子どもとJLAジュニアプログラム	5	0	ジュニアプログラムを学習指導要領(体育水泳・保健)と比較し、理解を深める。		
	子どもと環境の変化	3	0	子どもを取り巻く社会環境の変化を学び、子どもを理解する。		
	子どもの心	3	0	思春期について子どもの現状を学び、子どもを理解する。		
	子どもの身体	4	0	発育発達について子どもの現状を学び、子どもを理解する。		
合計		15	0			
		15				

【ジュニア教育とスポーツ(リーダー)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
ジュニア教育とスポーツ	スポーツとしてのライフセービング	5	0	スポーツとしてのライフセービングについて考える。		
	スポーツとしてのライフセービングによって得られること	5	0	スポーツとしてのライフセービングの有効性について考える。子ども達がどんなことを楽しみにしているか、または苦手と捉えているか知る。		
	指導者としての留意点	5	0	指導者としてスポーツとしてのライフセービングを指導する際の留意点について考える。		
合計		15	0			
		15				

【伝え方(リーダー・イントラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
二つのことば	ことば(文字言語) ことば(音声言語)	3	10	文字言語と音声言語の特性に気付き、それらを効果的に活用しながら伝えることの重要性について理解する。	「ことば」を扱う講義であることを意識し、伝達者の実例を演じる。	スライド 文字を書いた紙
ことばと「伝わる」ということ	ことばと伝達	7	0	ことばを使用する場合と使用しない場合の効果の関係性に気付き、それを応用して伝える技術の大切さを理解する。	文字言語を活用した伝達方法の実例として、音声言語を使用せず、スライドのみで展開する。	スライド
ことばのキャッチボール	受け手に適応した情報発信とコミュニケーション	5	0	受け手に応じた情報発信方法の選択の重要性に気付き、双方向のコミュニケーションの大切さを理解する。	受講者とのキャッチボールを実演する中で体験的理解を図る。	スライド 柔らかいボール もしくはぬいぐるみ
合計		15	0			
		15				

【A・イントラ/イントラの役割と心掛け(イントラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
A・イントラ/イントラの役割と心掛け	ジュニア資格の意義	3	0	ジュニア・ライフセービング教育に関する資格の意義について理解を深める。		
	アシスタント・インストラクターの役割	5	0	ジュニア教室・ジュニア指導者養成の2つの役割があることを理解する。		
	インストラクターの役割	5	0	ジュニア教室・ジュニア指導者養成の2つの役割があることと、資格の将来展望を理解する。		
	A・イントラ/イントラ用品の取り扱い	2	0	リーダーに支給される物品の取り扱い(着用・利用の制限、譲渡・転売の禁止など)について理解する。		ユニフォーム
合計		15	0			
		15				

【ジュニア教室とマネジメント(イントラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
ジュニア教室とマネジメント	事前、活動中、事後に行うマネジメント	15	0	ジュニア・ライフセービング教育に係るマネジメントについて考える。参加者(児童、生徒)の保護者に対する「同意書」作成について理解する。		
合計		15	0			
		15				

【指導者養成講習会のマネジメント(イントラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
指導者養成講習会のマネジメント	サポーター養成講習会	5	0	広く一般の受講者に対しての、服装・態度・言葉遣いなど接遇全般の重要性を理解し、日本ライフセービング協会の指導者として講習会に臨むことの大切さを認識する。		
	リーダー養成講習会	10	0	リーダーは子どもたちにとって日本ライフセービング協会の指導者であること、その指導者を養成する立場にあることを自覚し責任の大きさを理解する。		
	学科指導	15	45	講習内容運営をインストラクターとともに学科指導練習し、準備・補助・デモンストレーションする。ティームティーチング等について実践的に理解する。		
	実技指導	15	45	講習内容運営をインストラクターとともに実技指導練習し、準備・補助・デモンストレーションする。ティームティーチング等について実践的に理解する。		
合計		45	90			
			135			

【学校教育との関わり①(イントラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
教育法規	日本国憲法	1	0	日本国憲法における我が国の教育にかかる条文について理解する。		教育小六法等
	教育基本法	1	0	第一章 教育の目的及び理念 教育の目的／教育の目標／生涯学習の理念／教育の機会均等 第二章 教育の実施に関する基本 義務教育／学校教育／大学／私立学校／教員／家庭教育／幼児期の教育／社会教育／学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力／政治教育／宗教教育 第三章 教育行政 教育行政／教育振興基本計画 第四章 法令の制定 以上について、理解する。	教育関係者以外の指導者に対する理解支援について配慮する。	小学校学習指導要領
	学校教育法	1	0	第二章 義務教育 第四章 小学校 第八章 特別支援教育 以上について、理解する。	教育関係者以外の指導者に対する理解支援について配慮する。	小学校学習指導要領
	学校教育法施行規則	1	0	第四章 小学校 第二節 教育課程 第八章 特別支援教育 附則 以上について、理解する。	教育関係者以外の指導者に対する理解支援について配慮する。	小学校学習指導要領
学習指導要領	幼稚園教育要領	1	0	第1章 総則 第1 幼稚園教育の基本 第2 教育課程の編成 第3 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など 以上について、理解する。	教育関係者以外の指導者に対する理解支援について配慮する。	幼稚園教育要領
	小学校学習指導要領	8	0	第1章 総則 第1 教育課程編成の一般方針 第2 内容等の取扱いに関する共通的事項 第3 授業時数等の取扱い 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項 以上について、理解する。	教育関係者以外の指導者に対する理解支援について配慮する。	小学校学習指導要領
	中学校学習指導要領	2	0	第1章 総則 第1 教育課程編成の一般方針 第2 内容等の取扱いに関する共通的事項 第3 授業時数等の取扱い 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項 以上について、理解する。	教育関係者以外の指導者に対する理解支援について配慮する。	中学校学習指導要領
合計		15	0			
			15			

【乳児・小児の心肺蘇生(イントラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
ジュニア教室の現状	CPR年齢区分	5	0	CPR年齢区分を理解する。		
	第一三共ジュニア教室参加者区分			ジュニア教室に参加している子どもの区分を知る。		
乳児・小児CPR	一次救命処置の年齢別比較	10	0	一次救命処置の年齢別比較表をもとに技術の確認を行う。同時に小児のデモンストレーションを行う。		
合計		15	0			
			15			

【ジュニア教育と心肺蘇生・応急手当(リーダー)】							
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材	
		学科	実技				
ジュニア教育と心肺蘇生・応急手当	ジュニア教育としての位置づけ	3	0	ジュニアプログラムを学習指導要領(保健)と比較し理解を深める。JLAジュニアプログラムの展望を理解する。			
	海外の事情	3	0	ノルウェーにおけるBLS(ベーシック・ライフ・サポート)学校教育での取り組みを紹介。			
	生命教育・道徳教育としてのライフセービング	3	0	「いのちの大切さ」について、考えさせる手段としてのCPR・FAを理解する。「守る・助ける」知識・技術を指導するとともに、心を育むことが大切であることを理解する。		ジュニア・ライフセービング教育指導指針	
	指導の実際	3	0	年齢や経験・習熟度を考慮し、教材・器材を工夫し、指導できるようにすることを理解する。			
	防災・予防教育としてのライフセービング	3	0	「未然に防ぐこと」が大切であることを伝える。広義のライフセービングを知る。			
合計	15	0					
		15					

【実習 CPR体験実習(成人)(サポーター)】							
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材	
		学科	実技				
心肺蘇生	心肺蘇生手順の確認	15	15	心肺蘇生の手順を確認する。		成人用ダミー 練習用フェイスシート AEDトレーナー アルコールティッシュ	
	心肺蘇生の体験	0	30	心肺蘇生の手順に合わせて、ダミー人形を使用し、体験をする。			
合計		15	45				
		60					

【実習Ⅰ CPR実習(成人)(リーダー)】							
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材	
		学科	実技				
心肺蘇生	心肺蘇生手順の確認	10	15	心肺蘇生の手順の確認をする。		成人用ダミー 練習用フェイスシート AEDトレーナー アルコールティッシュ	
	心肺蘇生実技の確認	0	35	ダミー人形を使用し、実技の習得を図る。			
合計		10	50				
		60					

【ウォーターセーフティJr./実習Ⅱ(リーダー)】							
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材	
		学科	実技				
ウォーターセーフティJr.	実技の実際	3	0	実技を体系的に理解し、子どもと環境に合わせた選択ができるよう理解を深める。			
	技術の確認	12	0	子ども達に伝えたいWSプログラム内容の復習と技術の確認をする。			
	ジュニア教育指導実習	0	90	子ども達への指導を念頭に、実際に「計画・指導・ふりかえり」を通して、ジュニア教育の理解を深める。			
合計		15	90				
		105					

【サーフスキルJr./実習Ⅱ サーフスキル指導実習(イントラ)】							
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材	
		学科	実技				
サーフスキル	サーフスキルとは	5	0	サーフスキルとは何かを理解する。			
	技術の確認	10	180	サーフスキルの種目の一部を確認する。			
合計		15	180				
		195					

【実習Ⅲ 乳児・小児CPR実習(イントラ)】							
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材	
		学科	実技				
乳児・小児の心肺蘇生	乳児・小児の心肺蘇生手順の確認	15	15	心肺蘇生の手順の確認をする。		小児用ダミー 乳児用ダミー 練習用フェイスシート AEDトレーナー アルコールティッシュ	
	乳児の心肺蘇生実技の確認	0	30	ダミー人形を使用し、実技の習得を図る。			
	小児の心肺蘇生実技の確認	0	30	ダミー人形を使用し、実技の習得を図る。			
合計		15	75				
		90					

【演習 ジュニア教室指導実習(リーダー)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
指導計画作成	指導案の作成	5	40	ジュニア・ライフセービング教育指導指針に基づいた指導案を作成する。		ジュニア・ライフセービング 教育指導指針
指導実践	指導案に基づいた指導実践	5	20	指導案に基づいた指導を実践する。		
指導評価	指導と評価	5	20	指導案に基づいた指導実践を評価する。		
指導総括	指導の総括	5	10	計画・実践・評価をもとに次につなげるための総括を行う。		
指導方法	実態把握と導入	5	10	対象者の実態把握とそれに基づいた導入について理解し、実習する。		
	全習法と分習法	5	15	2通りの学習伝達方法を理解し、実習する。		
	チーム・ティーチング	5	15	チーム・ティーチングについて理解し、実習する。		
	配慮を要する対象者	5	10	配慮を要する対象者について理解する。		
合計		40	140			
			180			

【演習 I 指導計画 (イントラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
指導計画作成	指導案の作成	0	10	学習指導要領を参考にして、ジュニア・ライフセービング教育指導指針に基づいた指導案を作成する。		ジュニア・ライフセービング 教育指導指針
指導実践	指導案に基づいた指導実践	5	0	指導案に基づいた指導を実践する。		
指導評価	指導と評価	5	0	指導案に基づいた指導実践を評価する。		
指導総括	指導の総括	5	0	計画・実践・評価をもとに次につなげるための総括を行う。		
指導方法	実態把握と導入	5	0	対象者の実態把握とそれに基づいた導入について理解し、実習する。		
	全習法と分習法	5	0	2通りの学習伝達方法を理解し、実習する。		
	チーム・ティーチング	5	0	チーム・ティーチングについて理解し、実習する。		
	配慮を要する対象者	5	0	配慮を要する対象者について理解する。		
合計		35	10			
			45			

【演習 II・III サポーター・リーダー養成指導実習(イントラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
指導計画作成	指導案の作成	5	40	サポーター育成及びリーダー養成のための指導案を作成する。		ジュニア・ライフセービング 教育指導指針
指導実践	指導案に基づいた指導実践	5	30	指導案に基づいた育成指導を実践する。		
指導評価	指導と評価	5	10	指導案に基づいた育成指導実践を自己評価・相互評価する。		
指導総括	指導の総括	5	10	計画・実践・評価をもとに次につなげるための総括を行う。		
指導方法	実態把握と導入	5	10	対象者の実態把握とそれに基づいた導入について理解し、実習する。		
	全習法と分習法	5	10	2通りの学習伝達方法を理解し、実習する。		
	チーム・ティーチング	5	20	チーム・ティーチングについて理解し、実習する。		
	配慮を要する対象者	5	10	配慮を要する対象者について理解する。		
合計		40	140			
			180			

【ウォーターセーフティJr./実習 II (リーダー)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
ウォーターセーフティJr.	実技の実際	3	0	実技を体系的に理解し、子どもと環境に合わせた選択ができるよう理解を深める。		
	技術の確認	12	0	子ども達に伝えたいWSプログラム内容の復習と技術の確認をする。		
	ジュニア教育指導実習	0	90	子ども達への指導を念頭に、実際に「計画・指導・ふりかえり」を通して、ジュニア教育の理解を深める。		
合計		15	90			
			105			

【サーフスキルJr./実習 II サーフスキル指導実習(イントラ)】						
タイトル	項目	時間		目標と内容	留意点	教材・器材
		学科	実技			
サーフスキル	サーフスキルとは	5	0	サーフスキルとは何かを理解する。		
	技術の確認	10	180	サーフスキルの種目の一部を確認する。		
合計		15	180			
			195			

おわりに

日本ライフセービング協会は、教育団体です。

「国際的な視野から、海岸をはじめとする全国の水辺の環境保全、安全指導、監視・救助等を行うライフセービング活動の普及及び発展等に関する事業を行い、国民の安全かつ快適な水辺の利用に寄与すること」を目的としています。

1991年、日本ライフセービング協会誕生

2001年、内閣府特定非営利活動法人認証

2012年、ジュニア・ライフセービング教育指導者資格認定制度発足

ジュニア・ライフセービング教育は“次世代へ伝えること”を目的としています。

人は両手に二つの“き”を持って生まれる
「勇気」と「元気」
使えば使うほど増えるという不思議な“き”

貴財団は活動指針『フィランソロピー実践のための七つの鍵』という「勇気」を持って、本協会に対する助成を開始されました。

組織としての「元気」があるからこそ、永きにわたり助成継続いただいております。

日本国内でライフセービングが継続的に裾野を広げていくための「勇気」と「元気」の源となっています。

日本ライフセービング協会は、“七つの鍵”に学ぶ中で、『水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解からいのちの大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す』ために、「勇気」と「元気」で前進します。

ライフセービングの未来への導きとなることを予感して。
ありがとうございます。

2012年3月
日本ライフセービング協会
ジュニア教育委員会一同